ISSN 0915－1613

年　報　16

平成11年度

2000．5

山梨県埋蔵文化財センター

ISSN 0915－1613

年　報　16

平成11年度

2000．5

山梨県埋蔵文化財センター

序

文化財保護法の改正などに伴い、文化財行政システムに関する環境がめまぐるしく変化し、それを取り巻く状況はより一層厳しいものとなり、発想の転換の時期にあります。

当センターでは、調査の成果を広く県民の皆様に還元するため、文化財保護の理念に基づいた情報公開の原則と啓蒙普及活動に力を入れております。最近では特に発掘調査後に刊行される報告書について、専門家以外の方々にも理解しやすいページを設けたり、難解だった記載内容を従来の表現と変えるなど、できるところから親しみやすい様に改善しようと、担当職員一同思考錯誤しながら努力しております。また発掘調査では、その成果をすぐに紹介できる様に、極力発掘調査中に現地で説明会も可能な限り実施に努めております。

本書は、1999年度に当センターが実施しました発掘調査及び試掘調査の概要と、『遺跡調査発表会』や『山梨の遺跡展』などの事業内容を報告するものであります。今年度は12遺跡の発掘調査と12の事業に係わる試掘調査を行いました。この中で特筆すべきものとしては、従来遺跡が存在しないのではとされていた扇状地に位置する白根町の百々（どうどう）遺跡は、甲西バイパス建設に伴って発見され、平安時代の家の跡が200軒と多数の牛馬の頭骨、それに四体まとまって埋められた馬などが出土しました。このことから「続日本後記」に見られる「巨麻郡馬相野空閑地」の地ではないかと考えられ、また中世の「八田牧」との関連性も指摘されています。同じく八田村の立石下遺跡からは、平安時代の家の跡から「奈良三彩」の小壷の口縁部が2点出土しました。山梨県内での発見例はこれでまだ2例目で、この遺跡の性格や流通経路を考える上で興味深い資料です。国道137号上黒駒バイパス建設に伴って、御坂町上の原下割遺跡から中世の地下式坑などが発見されました。この地域からは初めての発見で、これらを造った人々の地域的な関係と目的を考える上で貴重な資料と成りました。以上のように、今年度は特に平安時代から中世にかけての貴重な発見があり、今後これらの資料は整理され、新たな研究成果と共に報告される予定となっております。

当センターも今年度で18年が経過し、研究資料も豊富に蓄積されてきました。今後、これらの資料を広く身近なものとして有効に活用すべく検討も終え、いよいよ実際に活動を開始し始める予定となっております。埋蔵文化財の保存と保護、そして啓蒙、学校教育、社会教育活動と広く努めて参る所存でありますので、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2000年5月

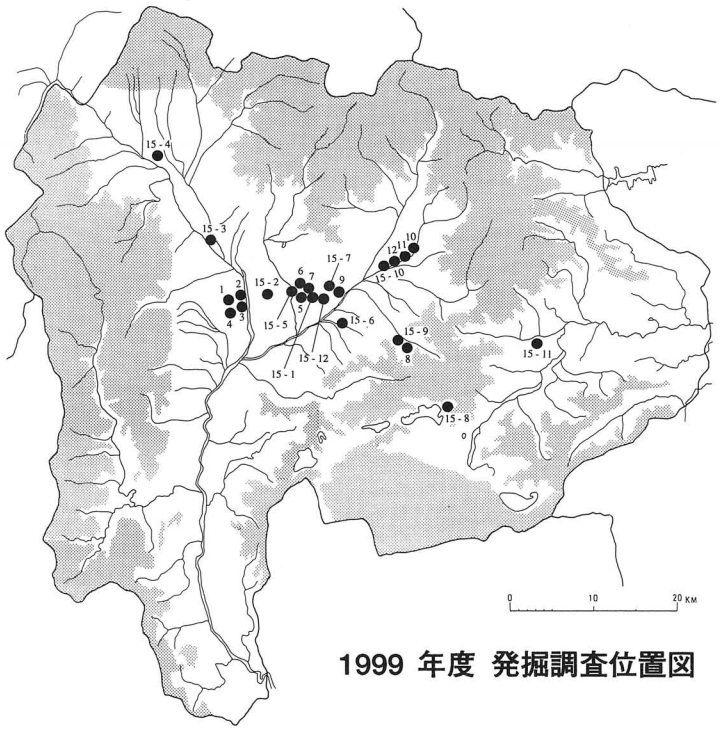
山梨県埋蔵文化財センター
所長　大塚初重

目　次

Ⅰ　1999年度の事業概要
1　発掘調査 …… 1
2　整理作業 …… 1
3　収蔵資料の貸出及び掲載許可 …… 2
4　調査研究課内研究グループ・各種委員会 …… 11
5　第11回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 12
6　山梨の遺跡展'99 …… 12
7　遺跡調査発表会 …… 13
8　国際協力専門技術員派遣事業 …… 13
9　調査研究課内研修 …… 14
10　寄贈・購入図書 …… 14

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要
1　百々遺跡① …… 15
2　百々遺跡② …… 17
3　百々遺跡③ …… 19
4　立石下遺跡 …… 21
5　仲田遺跡 …… 23
6　横堀遺跡 …… 25
7　日向町遺跡 …… 26
8　甲府城跡〔県指定史跡〕 …… 27
9　道々芽木遺跡 …… 28
10　上の原下割遺跡 …… 30
11　横町遺跡 …… 31
12　大木戸遺跡 …… 33
13　保坂家屋敷墓 …… 34
14　影井遺跡 …… 34
15　八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査（試掘調査） …… 35

Ⅲ　県内の概況
1　発掘調査 …… 40
2　発掘調査の成果 …… 40
3　埋蔵文化財の保存と活用 …… 40
4　調査体制 …… 40
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・1999年度発掘調査一覧表 …… 41



1999 年度 発掘調査位置図

1. 本書は、1999 年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集は、望月郁也・野代幸和が行った。
3. 今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は、3 月末日現在で集計したものである。
4. 第Ⅱ章各遺跡の発掘調査概要における発掘調査面積の（　　）内は、調査対象面積である。
5. 左記の地図は、1999 年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は、右ページの［1. 発掘調査］の表に対応している。

職員組織

所長	大塚初重
次長	藤田修
総務課課長	(兼) 藤田修
次長	田代孝
調査研究第1課課長	末木健
調査研究第2課課長	坂本美夫

	総務課	
総務担当	副主査	三井一
	主事	末松(山形)博子
	主事	畑野博之
	主任文書事務員	佐藤由香
	業務員	久保川一三

調査研究第1課		
調査第一担当	主査・文化財主事	八巻與志夫
	主任・文化財主事	深沢容子
	主任・文化財主事	小林健二
	文化財主事	宮里学
	文化財主事	野代(市川)恵子
調査第二担当	主査・文化財主事	出月洋文
	副主査・文化財主事	小林稔
	主任・文化財主事	村石眞澄
	主任・文化財主事	吉岡弘樹
	文化財主事	長田雅巳
調査第三担当	副主査・文化財主事	山本茂樹
	副主査・文化財主事	湯川修一
	主任・文化財主事	古屋勝之
	文化財主事	野代幸和
	文化財主事	小林孝子
	非常勤嘱託	網倉邦生

調査研究第2課		
調査第四担当	副主幹・文化財主事	米田明訓
	副主査・文化財主事	望月郁也
	主任・文化財主事	今福利恵
	主任・文化財主事	熊谷栄二
	主任・文化財主事	勝俣透
	主任・文化財主事	田口明子
調査第五担当	主査・文化財主事	長沢宏昌
	主査・文化財主事	三森鉄治
	主任・文化財主事	保坂和博
	文化財主事	笠原みゆき
	非常勤嘱託	大木丈夫
調査第六担当	主査・文化財主事	保坂康夫
	主査・文化財主事	小林広和
	主任・文化財主事	小林公治
	主任・文化財主事	斎藤伸
	文化財主事	田中宗博
	文化財主事	依田幸浩

Ⅰ　1999年度の事業概要

1. 発掘調査

今年度は12遺跡の発掘調査と、12事業に係る試掘調査を行った。発掘調査の原因は道路建設10、公園整備1、建物建設1箇所となる。これらの調査は4月上旬から3月下旬まで行われ、主として12月以降を基礎整理期間とした。各遺跡の概要は第Ⅱ章で述べることとする。

番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	百々遺跡①	15	八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査(試掘調査)
2	百々遺跡②	-1	養護学校建設に伴う試掘調査(銀杏之木遺跡)
3	百々遺跡③	-2	竜王社会保険事務所建設に伴う試掘調査(中川原遺跡)
4	立石下遺跡	-3	旧韮崎保健所解体に伴う試掘調査(若宮一丁目遺跡)
5	仲田遺跡	-4	峡北地区総合学科高校整備に伴う試掘調査(原町農業学校前遺跡)
6	横堀遺跡	-5	甲府工業高校文化創造館建設に伴う試掘調査(塩部遺跡)
7	日向町遺跡	-6	リニア実験線変電所建設予定地内道路建設に伴う試掘調査
8	甲府城〔県指定史跡〕	-7	西関東道路建設に伴う試掘調査(上町田遺跡)
9	道々芽木遺跡	-8	河口湖バイパス建設に伴う試掘調査(追坂遺跡)
10	上の原下割遺跡	-9	国道137号(上黒駒バイパス)改築に伴う試掘調査(桂野遺跡)
11	横町遺跡	-10	国道441号(塩山東バイパス)改築に伴う試掘調査(五反田遺跡)
12	大木戸遺跡	-11	国道20号(大月バイパス)改築に伴う試掘調査(延命寺遺跡)
13	保坂家屋敷墓	-12	新環状道路建設に伴う試掘調査(上十石遺跡)
14	影井遺跡		

2. 整理作業

整理作業は、主に本年度調査した遺跡の基礎的整理作業と、基礎的な整理が済んだ遺跡の本格的整理作業とを、以下のとおり行った。

[1] 基礎的整理作業

番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	百々遺跡①	9	道々芽木遺跡
2	百々遺跡②	10	上の原下割遺跡
3	百々遺跡③	11	横町遺跡
4	立石下遺跡	12	大木戸遺跡
5	仲田遺跡	13	保坂家屋敷墓
6	横堀遺跡	14	影井遺跡
7	日向町遺跡	15	塩瀬下原遺跡
8	甲府城〔県指定史跡〕		

[2] 本格的整理作業

番号	遺　跡　名	事　業　名	発掘調査年度
1	町屋口遺跡	一般国道52号(甲西バイパス)改築	1998
2	南大浜遺跡	中央自動車道拡幅	1997
3	横森赤台遺跡	国道141号(箕輪バイパス)改築	1998
4	桂野遺跡	国道137号(上黒駒バイパス)改築	1996～1998
5	西馬鞭遺跡	国道137号(上黒駒バイパス)改築	1998
6	平林２号墳	西関東道路建設	1998
7	岩清水遺跡	風土記の丘整備	1998
8	富士見一丁目遺跡	中央病院建設	1998
9	石橋北屋敷遺跡	一般国道52号(甲西バイパス)改築	1997～1998
10	宮沢中村遺跡	一般国道52号(甲西バイパス)改築	1994・1996
11	二本柳遺跡	一般国道52号(甲西バイパス)改築	1992
12	上の平遺跡	風土記の丘整備	1998
13	諏訪尻遺跡	県営分譲地造成	1997～1998
14	長峰砦遺跡	中央自動車道拡幅	1997～1998
15	横針前久保遺跡	中央自動車道八ヶ岳パーキングエリア改築	1998
16	安楽寺東遺跡	中央自動車道拡幅	1998
17	大月遺跡	県立都留高校改築	1997
18	日向町遺跡	北口公用車駐車場車庫建設	1999

3. 収蔵資料の貸出及び掲載許可

貸出許可平成11年度一覧

番号	貸出期間	申請許可物件名		申請者	利用目的
1	4．12～6．21	大丸山古墳出土	短甲（複製）1点	滋賀県立安土城考古博物館	春季特別展「古墳時代の戦乱」に展示のため
2	4．20～7．20	塩瀬下原遺跡出土	釣手土器1点	諏訪市博物館	第23回企画展「縄文時代の不思議な世界」に展示のため
		酒呑場遺跡出土	釣手土器1点		
3	6．23～7．30	大木戸遺跡出土	深鉢形土器4点	富士吉田市歴史民俗博物館	「山梨の遺跡 '98」に展示のため
		〃	有孔土器1点		
		〃	打製石斧2点		
		〃	土偶5点		
		〃	土器把手4点		
		〃	水晶製石鏃1点		
		諏訪尻遺跡出土	ミニチュア土器5点		
		〃	土製紡錘車4点		
		〃	土製装身具13点		
		〃	坩1点		
		〃	小型台付甕1点		
		〃	台付甕2点		
		〃	小型甕1点		
		〃	ふいごの羽口1点		
		〃	関西・東海系土器11点		
		〃	北信地方の土器2点		
		〃	玦状耳飾1点		
		〃	定角式磨製石斧1点		
		〃	石鏃9点		
		〃	石匙4点		
		〃	深鉢形土器1点		
		町屋口遺跡出土	かんざし10点		
		〃	キセル4点		
		〃	大八車車輪止め1点		
		〃	舟釘3点		
		〃	ちょうちん1点		
		〃	金属製品3点		
		〃	農具1点		
		〃	古銭20点		
		〃	すりばち3点		
		〃	磁器7点		
		〃	陶器1点		
		〃	ほうろく1点		
		甲府城跡出土	鯱瓦1点		
		〃	軒丸瓦3点		
		〃	軒平瓦1点		
		〃	鬼瓦2点		

番号	貸出期間	申請許可物件名		申請者	利用目的
		〃	陶磁器（皿）1点		
		〃	灯明皿1点		
		〃	石臼1点		
		〃	五輪塔1点		
		〃	すり石1点		
		平林2号墳出土	丸玉14点		
		〃	勾玉3点		
		原間遺跡出土	一字一石経28点		
		金山金山跡出土	金擦りの石1点		
		石橋北屋敷遺跡出土	土師器（坏）2点		
		〃	土師器（甕）1点		
		〃	須恵器（坏）2点		
		〃	須恵器（蓋）2点		
		塩瀬下原遺跡出土	深鉢形土器2点		
		〃	石皿1点		
		〃	石剣1点		
		米山遺跡A区出土	土層剥取		
		上の平遺跡出土	土層剥取		
4	7．12～9．17	酒呑場遺跡出土	人面装飾土器1点	鈴鹿市考古博物館	平成11年度特別展「誕生～縄文時代の母と子～」に展示のため
		上の平遺跡出土	人面把手1点		
		上野原遺跡出土	深鉢形土器1点		
5	8．24～9．28	大木戸遺跡出土	深鉢形土器4点	釈迦堂遺跡博物館	「山梨の遺跡'98」に展示のため
		〃	有孔土器1点		
		〃	打製石斧2点		
		〃	土偶5点		
		〃	土器把手4点		
		〃	水晶製石鏃1点		
		上の平遺跡出土	甕1点		
		〃	炉体土器1点		
		〃	石器（凹石・磨石）8点		
		〃	耳飾り1点		
		〃	石鏃2点		
		〃	土鈴1点		
		〃	土層剥取1点		
		桂野・西馬鞭遺跡出土	甕（弥生）1点		
		町屋口遺跡出土	かんざし10点		
		〃	キセル4点		
		〃	大八車車輪止め1点		
		〃	舟釘3点		
		〃	ちょうちん1点		
		〃	金属製品3点		
		〃	農具1点		
		〃	古銭20点		

番号	貸出期間	申請許可物件名		申請者	利用目的
		〃	すりばち3点		
		〃	磁器7点		
		〃	陶器1点		
		〃	ほうろく1点		
		甲府城跡出土	鯱瓦1点		
		〃	軒丸瓦3点		
		〃	軒平瓦1点		
		〃	鬼瓦2点		
		〃	陶磁器（皿）1点		
		〃	灯明皿1点		
		〃	石臼1点		
		〃	五輪塔1点		
		〃	すり石1点		
		平林2号墳出土	丸玉14点		
		〃	勾玉3点		
		原間遺跡出土	一字一石経28点		
		金山金山跡出土	金擦りの石1点		
		石橋北屋敷遺跡出土	土師器（坏）2点		
		〃	土師器（甕）1点		
		〃	須恵器（坏）2点		
		〃	須恵器（蓋）2点		
		塩瀬下原遺跡出土	深鉢形土器2点		
		〃	石皿1点		
		〃	石剣1点		
		米山遺跡A区出土	土層剥取		
6	9．1～9．10	金生遺跡出土	石鏃16点	甲府市立東中学校	社会科授業「石器にふれてみよう」に使用するため
		天神遺跡出土	石匙7点		
		〃	石錐7点		
		〃	磨製石斧1点		
7	9．15～11．10	宮の前遺跡出土	埋甕2点	浜松市博物館	特別展「祈りの造形－古代人の呪術と信仰」に展示のため
		金生遺跡出土	中空土偶（複製）1点		
		〃	土偶5点		
		〃	土製耳飾6点		
		〃	土製勾玉2点		
		〃	硬玉製勾玉（複製）1点		
		〃	硬玉製大珠1点		
		〃	石剣1点		
		〃	石刀1点		
		〃	石棒1点		
		一ノ沢遺跡出土	土偶2点		
		宮の前遺跡出土	埋甕2点		
8	9．21～9．25	塩部遺跡出土	E46集束焼夷弾1点	昭和町立押原中学校	学園祭の学年展示「平和」に展示するため
		〃	M46焼夷弾3点		

番号	貸出期間	申請許可物件名		申請者	利用目的
9	9．23～12．10	甲府城跡出土	軒丸瓦（浅野家家紋）2点	横浜市歴史博物館	特別展「秀吉襲来－近世関東の幕開け－」に展示するため
		〃	五三桐瓦（破片）1点		
		〃	五三桐瓦（金箔）2点		
		〃	五三桐瓦（破片）6点		
		〃	輪宝2点		
		〃	鯱瓦（鱗の部分）1点		
		〃	〃 1点		
		〃	鯱瓦（目のまわり）1点		
		〃	鯱瓦（顔の部分）1点		
		〃	丸瓦（浅野家家紋）1点		
		〃	瓦（浅野家家紋）1点		
		〃	獅子瓦1点		
		〃	慶長一分金1点		
		〃	軒丸瓦		
		〃	軒丸瓦と軒平瓦（複製）4点		
		〃	鬼瓦2点（風神）1点		
		〃	鬼瓦（風神・複製）1点		
		〃	鯱瓦1点		
		〃	鯱瓦（複製）2点		
10	10．4～12．26	兄川出土	ナウマン象臼歯1点	釈迦堂遺跡博物館	特別展「ナウマン象の世界」に展示のため
		立石遺跡出土	壺形土器2点		
		天神堂遺跡出土	石器4点		
11	12．1～2．8	上の平遺跡出土	壺形土器2点	春日居町郷土館	企画展「春日居の世界展－尾張・甲斐を中心として」に展示のため
		銚子塚古墳出土	だ龍鏡（複製）1点		
		〃	三角縁神獣車馬鏡(複製)1点		
		〃	画文帯環状乳神獣鏡(複製)1点		
		〃	車輪石（複製）2点		
		〃	石釧（複製）2点		
		〃	壺形埴輪1点		
		〃	朝顔形埴輪1点		
		平林2号墳出土	直刀1点		
		〃	櫛目文鏡1点		
		〃	金環6点		
		〃	三角形狭鋒長茎箆被式鉄鏃1点		
		〃	平造切刃柳刃式鉄鏃1点		
		〃	五角形式鉄鏃5点		
		〃	片關刃箭式鉄鏃1点		
		〃	端刃鑿箭式鉄鏃1点		
		〃	丸玉121点		
		〃	蜻蛉玉2点		
		〃	管玉1点		
12	1．7～3．15	中谷遺跡出土	土偶1点（複製品）	新潟県企画調整部企画課社会文化施設建設室	複製品作成のため
13	1．21～3．30	大丸山古墳出土	短甲1点（複製品）	世田谷区立郷土資料館	平成11年度特別展『野毛大塚古墳とその時代』に展示のため

番号	貸出期間	申請許可物件名	申請者	利用目的
14	1．20～1．23	甲ッ原遺跡出土　縄文土器1点 金の尾遺跡出土　弥生土器1点 二宮遺跡出土　土師器1点 川又坂上遺跡出土　土器破片15点	県立甲府第一高等学校	地理歴史科「日本史B」授業に活用するため
15	4．29～6．4	一の沢遺跡出土　深鉢形土器5点（重文） 〃　有孔鍔付土器1点（重文） 〃　土偶頭部1点（重文） 上野原遺跡出土　水煙把手深鉢形土器1点 上の平遺跡出土　深鉢形土器1点 海道前C遺跡出土　顔面把手付深鉢形土器1点 宮の前遺跡出土　深鉢形土器1点 金生遺跡出土　中空土偶（複製）1点 鋳物師屋遺跡出土　円錐形土偶（複製）1点	東北歴史博物館	特別展「縄文時代の日本列島」に展示のため

掲載許可平成11年度一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
1	3月30日	小学館	「万葉歌のなかの縄文発掘」に掲載のため	酒呑場遺跡出土　両耳土器・蓋
2	3月31日	山梨県考古学協会	「山梨県考古学協会20周年記念　記念文集」に掲載のため	考古博物館　館内風景
3	3月31日	雄山閣出版株式会社	「古墳出土須恵器集成第4巻　東日本編Ⅱ」に掲載のため	東山南遺跡出土　須恵器一括
4	4月5日	あかぎ出版	「日の丸　そのルーツと美学」に掲載のため	上野原遺跡出土　深鉢形土器
5	4月12日	渡辺　誠	「日本考古学　8号」に掲載のため	海道前C遺跡出土　人面把手　2点 甲ッ原遺跡出土　人面把手　3点 酒呑場遺跡出土　人面把手　4点 金生遺跡出土　人面把手　2点
6	4月15日	朝日新聞社出版局	「古代史発掘　1996～1998」に掲載のため	塩瀬下原遺跡　発掘現場風景 塩瀬下原遺跡　石棒出土状況
7	4月28日	エムティーディージャパン社	「コインポット花筵号」に掲載のため	甲府城跡出土　一分金
8	5月1日	山下　久雄	「砥粒加工学会誌　6月号」に掲載のため	米山遺跡出土　局部磨製石斧
9	5月18日	株式会社アケト	「NEWTONアーキオ　第9号」に掲載のため	甲府城跡出土　一分金
10	5月19日	石川県立歴史博物館	－夏休み親子で楽しむ博物館－「うさぎワンダーランド」図録等に掲載のため	金生遺跡出土　天目釉兎形水滴
11	6月4日	株式会社アケト	「NEWTONアーキオ　第9号」に掲載のため	塩川遺跡出土　88号墓壙
12	5月7日	株式会社マグナックス	岡本太郎美術館に展示のため	殿林遺跡出土　深鉢形土器 宮の前遺跡出土　深鉢形土器 一の沢遺跡出土　深鉢形土器 金生遺跡出土　中空土偶 重郎原遺跡出土　深鉢形土器
13	6月16日	(株)類設計室　北村浩司	ハガキの構図に使用するため	重郎原遺跡出土　深鉢形土器
14	7月7日	講談社	「FRIDAY」もしくは「FRIDAYスペシャル」に掲載のため	塩瀬下原遺跡　十字の敷石住居　航空写真
15	7月7日	公立学校共済組合本部	月刊「共済フォーラム」に掲載のため	一の沢遺跡出土　深鉢形土器
16	7月8日	小学館	「全国古代遺跡・古墳鑑賞ガイド」（仮題）に掲載のため	甲斐風土記の丘　全景写真 銚子塚古墳　全景写真 かんかん塚古墳出土　馬具一式
17	7月27日	山川出版社	「文化財探訪クラブ　考古学の世界」に掲載のため	金生遺跡出土　中空土偶 金生遺跡　配石遺構 甲ッ原遺跡出土　石皿と磨石
18	8月1日	新潟県企画調整部企画課	新潟県立歴史博物館常設展示に使用のため	一の沢遺跡出土　土偶
19	7月19日	県史編さん室	「山梨県史」資料編3　原始・古代3　文献・文字資料　に掲載のため	甲ッ原遺跡出土　墨書・刻書土器　2点 金生遺跡出土　墨書・刻書土器　7点 城下遺跡出土　墨書・刻書土器　57点 寺所遺跡出土　墨書・刻書土器　406点 原田遺跡出土　墨書・刻書土器　30点 上平出遺跡出土　墨書・刻書土器　8点 柳坪遺跡出土　墨書・刻書土器　34点 柳坪遺跡(B地区)出土　墨書・刻書土器　7点 青木北遺跡出土　墨書・刻書土器　34点 塩川遺跡出土　墨書・刻書土器　6点 西川遺跡出土　墨書・刻書土器　2点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
				大豆生田遺跡出土　墨書・刻書土器　12点 駒井遺跡出土　墨書・刻書土器　5点 宿尻遺跡出土　墨書・刻書土器　1点 大輪寺東遺跡出土　墨書・刻書土器　1点 大坪遺跡出土　墨書・刻書土器　1点 桜井畑遺跡出土　墨書・刻書土器　4点 竜王3号墳出土　墨書・刻書土器　1点 村前東A遺跡(Ⅰ区)出土　墨書・刻書土器　8点 村前東A遺跡(Ⅲ区)出土　墨書・刻書土器　2点 村前東A遺跡(Ⅳ－a区)出土　墨書・刻書土器　3点 村前東A遺跡(Ⅴ区)出土　墨書・刻書土器　1点 新居道下遺跡出土　墨書・刻書土器　1点 獅子之前遺跡出土　墨書・刻書土器　15点 赤井遺跡出土　墨書・刻書土器　2点 北中原遺跡出土　墨書・刻書土器　26点 北堀遺跡出土　墨書・刻書土器　13点 狐原遺跡出土　墨書・刻書土器　224点 車地蔵遺跡(杭No.269地点)出土　墨書・刻書土器　7点 車地蔵遺跡(杭No.280地点)出土　墨書・刻書土器　7点 車地蔵遺跡(杭No.282地点)出土　墨書・刻書土器　9点 桜畑遺跡(杭No.313地点)出土　墨書・刻書土器　4点 桜畑遺跡(杭No.319地点)出土　墨書・刻書土器　1点 西田町遺跡(杭No.344地点)出土　墨書・刻書土器　1点 四ツ塚古墳群出土　墨書・刻書土器　4点 四ツ塚古墳群(勝沼バイパス建設地内トレンチ)出土　墨書・刻書土器　1点 姥塚遺跡出土　墨書・刻書土器　12点 地耕面遺跡出土　墨書・刻書土器　4点 二之宮遺跡出土　墨書・刻書土器　14点 半行寺遺跡出土　墨書・刻書土器　6点 下長崎遺跡出土　墨書・刻書土器　2点 石橋条里遺跡出土　墨書・刻書土器　12点 温湯遺跡出土　墨書・刻書土器　2点 稲荷塚古墳出土　墨書・刻書土器　4点 御所遺跡出土　墨書・刻書土器　15点 九鬼Ⅱ遺跡出土　墨書・刻書土器　70点
20	8月3日	和田　宏	大学生用の国際食文化史テキストに掲載のため	サルナシ ガマズミ トチ ツノハシバミ
21	8月10日	(株)アートウエア・コミュニケーションズ	「朝日百科・日本の歴史」第2巻「弥生時代と古代王権」に掲載のため	金生遺跡　俯瞰写真 上野原遺跡出土　深鉢形土器 上の平遺跡　方形周溝墓群

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
22	8月10日	創童舎	東北電力株式会社発行「白い国の詩」に掲載のため	豆塚遺跡出土　小型の栗 花鳥山遺跡出土　エゴマ炭化種実塊と現生のエゴマ
23	8月22日	三島市教育委員会	富士・沼津・三島市博物館共同企画展「富士・愛鷹・箱根山麓の縄文時代」に展示のため	金生遺跡　配石遺構
24	9月16日	山川出版社	「文化財探訪クラブ　考古学の世界」に掲載のため	一の沢遺跡出土　縄文時代中期土器群
25	10月13日	(財)NHKサービスセンター	大阪市立クラフトパーク内での上映のため	安道寺遺跡出土　水煙把手付土器
26	10月15日	上野原町教育委員会	広報「うえのはら」に掲載のため	関山遺跡出土　深鉢形土器
27	10月25日	青森県立郷土館	青森県立郷土館館内「郷土の歴史コーナー」に展示のため	一の沢遺跡出土　有孔鍔付土器
28	10月25日	至文堂	日本の美術「城の石垣と堀」に掲載のため	甲府城　銅門下梯子胴木 甲府城　銅門改修 甲府城　裏石垣
29	10月29日	新書館	「縄文人の文化力」に掲載のため	塩瀬下原遺跡　石皿　2点
30	11月1日	(株)制作会議	千代田ドリーミー「互助会ニュース」に掲載のため	考古博物館　外観 考古博物館　展示室内
31	11月9日	至文堂	日本の美術「城と天守」に掲載のため	甲府城出土　金箔鯱瓦
32	12月4日	白根町立白根飯野小学校	櫛形町社会科副読本「わたしたちの櫛形町」に掲載のため	長田口遺跡出土　ナイフ形石器　2点 村前東遺跡出土　古墳時代土器　1点
33	12月8日	(株)郷土出版社	「図説　韮崎・巨摩の歴史」に掲載のため	金生遺跡出土　中空土偶
34	12月15日	(株)浜島書店	「プロムナード日本史」に掲載のため	甲ッ原遺跡出土　石皿と磨石
35	1月19日	山梨日日新聞出版局	「ザやまなし」3月号の特集・甲府城に掲載のため	甲府城跡　航空写真 石垣発掘風景 堀発掘風景 稲荷門 甲府城復元模型 甲府城跡出土　金箔鯱瓦 金箔鯱瓦　復元 人形付鬼瓦 人形付鬼瓦　復元 一分金
36	2月4日	三方町縄文博物館建設準備室	福井県三方町縄文博物館常設展示室に展示のため	安道寺遺跡出土　有孔鍔付土器
37	2月8日	中道町	インター周辺案内パンフレットに掲載のため	銚子塚古墳出土　三角縁神獣鏡 上野原遺跡出土　深鉢形土器
38	2月9日	中道町教育委員会	中道町中央公民館に展示のため	上野原遺跡出土　深鉢形土器
39	2月14日	御坂町教育委員会	「みさかの遺跡～私達の御坂町のむかしを探る～」に掲載及び有線テレビで放送のため	花鳥山遺跡　調査風景 二之宮遺跡　調査風景 古代官衙古代寺院　調査風景 亀甲塚古墳　出土遺物 花鳥山遺跡　出土土器 二之宮遺跡　出土土器 半行寺遺出土　布目瓦 亀甲塚古墳　出土遺物
40	2月15日	(株)郷土出版社	「図説　甲府の歴史」「図説　韮崎・巨摩の歴史」に掲載のため	甲府城跡　発掘風景 甲府城跡出土　鬼瓦 甲府城跡出土　鯱瓦

番号	申　請　日	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名
				金生遺跡　第1号配石③ブロック 金生遺跡　第2号配石遺物出土状態 竜王2号墳　全景写真 竜王2号墳出土　馬具 城下・原田遺跡出土　巡方・丸鞘（石鍔） 寺所遺跡出土　鉄製鋸 寺所遺跡出土　金箸 東原遺跡　小鍛冶遺構 丘の公園第2遺跡　石器 丘の公園第2遺跡　発掘風景
41	2月10日	山梨戦跡ネットワーク	「山梨の戦争遺跡」に掲載のため	塩部遺跡　焼夷弾出土状況
42	2月29日	富士吉田市教育委員会	「富士吉田市史」通史編第1巻「原始・古代・中世」に掲載のため	イネのプラントオパール 金の尾遺跡　住居址 銚子塚古墳・丸山塚古墳
43	3月14日	森　和敏	「山梨考古」掲載論文「水際にある中期縄文時代遺跡」の資料として	沖田遺跡　住居址
44	3月16日	糸魚川市教育委員会	長者ヶ原考古館における常設展示及び展示図録に掲載のため	天神遺跡出土　ヒスイ製大珠 金生遺跡出土　ヒスイ勾玉 酒呑場遺跡出土　ヒスイ製大珠

4. 調査研究課内研究グループ・各種委員会

縄文編年研究部会　本年度新設された当部会では、今後の研究目標として、八ヶ岳東南麓における中期初頭から中葉にかけての在来系土器群と外来系土器群の共伴関係およびその変遷過程について、最新の出土資料から再検討を試みることにし、今年度としては主にその準備段階として資料の収集作業を実施した。現在、これらの資料分析をとおして、検討段階に入っており、資料化に向けて作業を行っている段階である。

縄文部会　縄文部会では、これまで行ってきた縄文土器絵引きの作成を引き続き行うと同時に、県内各地で行われた縄文時代遺跡の発掘調査現場見学を行った。今年度の縄文時代遺跡の調査例は意外に少なかったため、遺跡見学は白州町上小用遺跡、韮崎市石之坪遺跡の二カ所だけとなった。これまでの遺跡見学がそうであったように、どうしても八ヶ岳山麓、甲府盆地、県東部域などに限られ、県南部域の見学機会が少ない。富士川下流域の縄文時代遺跡の様相把握が次年度以降の目標の一つである。なお、縄文土器絵引きは、部会としての大目標であるが、今年度は発掘調査に追われたこともあって部会員が集合する機会が少なく中期資料の追加を行っただけである。

古墳部会　当部会では、平成7年度から県内に所在する古墳についてデータ化し、順次それらをカード化している。今年度は発掘調査中の大日河原遺跡（明野村）・西ノ原古墳（上野原町）を訪れた。また八代町に所在する荘塚古墳等複数の古墳、三珠町・豊富村に所在する町内古墳等を実際に訪れ、立地や環境の確認、表面採集などを行った。今年度はデータの収集を中心に行ったため、カード化する作業が停滞する傾向にあった。

中・近世部会　当部会では、平成9年度から「山梨における中世土器の考古学的編年の確立」を研究テーマとして、作業を行っている。昨年度に引き続き、県内の地域差が著しいことから、6地域に分けて資料を収集し、編年一覧の骨組みを構えることを目的としてきた。

実験考古学研究部会　「須恵器製作工程の実験」を新たな課題とした。陶磁器の源流といえる須恵器は遺跡からの出土も多いが、その製作の実際についてはあまり詳細ではない。そこで、①土器づくり②窯づくり③焼成実験の3段階で実験的に再現し、検証していこうというのが本研究の主眼である。今年度は、残念ながら第1段階の土器づくりにとどまった。来年度は、次の段階に研究を進め、成果を確かめていくつもりである。

考古教材研究部会　当部会は、センターに文化財主事として赴任してきた小学校・中学校・高等学校の教員9名と専門の文化財主事2名の計11名で構成されている。今年度は発掘現場がある地域の小・中学校を中心にパネル掲示を行い、普及・啓蒙活動を実践してきた。また、アンケートを実施し今年度の成果・課題を検討することにより、来年度以降より良い形として継続していく予定である。

資料活用普及検討会　文化庁の指針を受けて平成9年度に設置された「出土品の学校教育における活用委員会」を引き継ぎ、対象を学校以外へも拡大し、メンバーもセンターだけでなく考古博の職員も含めて検討を行った。

具体的には、普及活動を行う上で想定される課題について、センター内部でのアンケート調査に基づき検討を進めた。その結果、土器など出土品を運搬する際の扱いが課題となっていることが明らかになり、8月の所内の全体研修会にて遺物の梱包の実習を行った。そして、通常の梱包方法は習得も容易なものであり、資料の取り扱いに不慣れな借用者には、何らかの実習の機会を設ける必要があることを確認した。

また(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団の上尾小学校での実践「古代から教室へのメッセージ」を代表2名で参観するとともに、併せて埼玉県での普及活動の様子の聞き取りを行った。11月には「資料活用普及検討会報告」を作成し、リーダー会議～所内の全体研修会にて、これまでの活動報告と併せて「報告」の検討を行い、学術文化財課へ提出した。「報告」では、基本理念／出土品活用の方法／出土品取り扱いの方法／出土品公開に関する体制の整備などに分けた提言を行った。なかでもセンター外部の要望に対応するためには、資料普及課など専門のポストの設置と独自の予算が必要であることを強調した。

発掘基準検討委員会　当会は、平成10年に提言された文化庁埋蔵文化財に関する調査検討委員会作成の基準及びその後の文化庁の通知を受け、「山梨県における埋蔵文化財発掘調査の取り扱い基準」策定に向けての“たたき台”を作るために学術文化財課の担当者も交えて設置された。平成11年度当初段階では独自の基準策定が終了した都県と未策定の都県とがあり、本県は後者である。今年度の委員会では、特に原則中世までとされた発掘の対象時期について、本県の歴史性を考慮したうえでの中世と近世の境界設定を中心に論議した。

5. 第11回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県内の市町村教育委員会等において埋蔵文化財行政に従事する専門職員の資質向上と技術習得を目的とした「市町村埋蔵文化財専門職員研修会」は、例年と同じく当埋蔵文化財センターが主催し平成12年2月15日（火）に開催された。第11回となる今回の研修会では、講師に文化庁文化財保護部伝統文化課普及助成室長の和田勝彦氏を迎え、「埋蔵文化財行政の現状と課題」というテーマで、約40名の参加者を得て山梨県立考古博物館風土記の丘研修センター講堂にて、半日間の日程で実施した。

昨年度の地方分権一括法の成立に伴い、新年度から埋蔵文化財行政に関する法制度もいくつかの点で大きく改正された。またこの数年の流れの中で、いわゆる埋蔵文化財発掘調査の基準や出土品の取り扱いに関する基準の策定など、埋蔵文化財を取り巻く状況は大きく動いている。そうした中で文化庁記念物課において長年に亘って埋蔵文化財行政に取り組んでこられた和田氏を講師に迎え、現在に至るまでの経過と今後に予想される動きと課題について具体的・実際的にお話いただき、それを日頃携わっている地域埋蔵文化財行政に生かそうというのが、今回の研修会の主たる狙いであった。

講演は、まず埋蔵文化財行政の現状と法改正の諸点についての説明後、2. 埋蔵文化財に関する制度と行政の課題、3. 埋蔵文化財をとりまく環境と制度・行政の将来，その他、4. 制度改正等の可能性について、という各主題で話が進められた。これらの内容は多岐に渡るが、2～4についてその項目を配付資料から列記すると、2では「埋蔵文化財包蔵地の所在等の把握と特定について」、「記録保存のための発掘調査の在り方について」、「発掘調査経費について」、「発掘調査の体制について」、「出土品の適切な保存・活用について」、「発掘調査の成果の国民への還元について」、3では、「規制緩和・地方分権等の動きと埋蔵文化財」、「地方分権後の課題」、4では「開発行為の許可制について」、「発掘調査の義務化について」、「経費負担の義務化について」、「これらの制度強化の可能性について」、「発掘調査資格制度」、となる。

氏の講演の内容はいずれも多方面で議論が重ねられている根本的かつ重要なものであり、こうした現在の埋蔵文化財行政が抱える多くの問題点について、その埋蔵文化財独特の性質を熟知した上で具体的に話されていたため、大変説得力がありまた示唆に富んでいた。そしてこれ故に、今後埋文行政の行く手にある課題の大きさについて強く認識させるものであったといえる。残念ながら時間の関係で討議の時間が充分に取れなかったため、胸中に質問や疑問点を抱いたまま会場を後にした参加者も多かったと思われるが、全体としては時宜にかなった有意義な研修会を開けたものと考えている。

6. 山梨の遺跡展 '99

例年、当埋蔵文化財センターと市町村教育委員会で実施された発掘調査の成果を、年度末に「山梨の遺跡展」として発表・展示している。年度内に行われた発掘調査の成果の一部を、いち早く県民に紹介するもので、当センター主催で実施した。

年度内の開催は、平成12年3月18日から4月9日まで県立考古博物館の特別展示室を会場に、入場無料で行った。展示の内容は、①個別の遺跡の展示（当埋蔵文化財センター展示）、②市町村展示、③パネル展示、④新聞パネル展示の4種類の展示をした。①では、上野原下割（土器類）、立石下（土器類、石器類）、横堀（土器類・石器類）、道々芽木・横町（土器類）大木戸（土器類）、百々Ⅰ（土器類）、百々Ⅱ（土器類・鏡・和銅開珎）、百々Ⅲ（土器類・陶磁器類）、甲府城・日向町（土器類・瓦）の11遺跡の出土資料とパネル展示を行った。②では、櫛形町の北原C遺跡（土器類）、明野村の大日川原遺跡（土器・玉類）、一宮町の馬込遺跡（土器類・鉄製品）、甲府市の甲府城下町遺跡（陶磁器類）の各関係の教育委員会から出土遺物をお借りし、展示を行った。③では、仲田、横針前久保の2遺跡を中心に遺構写真や遺跡の全体写真を用いた展示や調査研究課課内研究グループの考古教材研究部会の活動内容をパネルを用い紹介した。④では、本年度、埋蔵文化財や発掘調査について新聞に掲載された記事をパネルを使い展示した。

これらの展示を通じて埋蔵文化財への理解、また山梨という郷土への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

7. 遺跡調査発表会

県内で実施された発掘調査の内容を一般の方々に広く知っていただくため、山梨県考古学協会との共催で年2回の遺跡調査発表会を実施している。スライド写真を用いた口頭発表の他にも出土品や写真パネルの展示もあわせて行った。

平成11年度上半期遺跡調査発表会（平成11年10月23日(土)於：山梨県立白根高等学校　参加者約100名）

1、 八代町「銚子原遺跡」（八代町教育委員会　伊藤修二）
　縄文時代前期から中期の集落跡。前期末の大形住居跡を検出。

2、 上野原町「上野原遺跡」（上野原町教育委員会　小西直樹）
　山梨県東部地区で明らかとなった後期古墳

3、 白根町「百々遺跡」（当センター　今福利恵）15～20ページ参照

4、 長坂町「石原田北遺跡」（帝京大学山梨文化財研究所　平野　修）
　八ヶ岳南麓の縄文時代および平安時代の集落

5、 八田村「仲田遺跡」（当センター　山本茂樹）23・24ページ参照

平成11年度下半期遺跡調査発表会（平成12年3月11日(土)於：帝京大学山梨文化財研究所　参加者約120名）

報告　「本年度の山梨県内埋蔵文化財の調査と保護」（山梨県教育庁学術文化財課　高野玄明）

1、 明野村「寺前遺跡」（明野村教育委員会　秋山圭子）
　縄文時代から平安、中世にわたる大きな複合遺跡

2、 長坂町「紺屋遺跡」（帝京大学山梨文化財研究所　宮沢公雄）
　平安時代集落と中世の竪穴住居の発見

3、 一宮町「北中原遺跡」（一宮町教育委員会　瀬田正明）
　古代から中世にかけての鉄を鋳造していた跡の調査

4、 甲府市「甲府城関連遺跡」（甲府市教育委員会　志村憲一）
　中世の井戸と甲府城に関わる武家屋敷と二ノ堀の調査

発表者の持ち時間は各遺跡25分とし、質疑応答は各発表終了後5分間とした。各発表者には一般の人にもわかりやすくするため平易な言葉を用いるよう努めていただいた。またあわせて上記発表遺跡等の遺跡出土品についても展示を行った。

8. 国際協力専門技術員派遣事業

山梨県が毎年実施している国際協力専門技術員派遣事業に基づいて、調査研究第1課第3担当の野代幸和を9月15日から11月13日の約2ヶ月間、中華人民共和国四川省政府外事弁公室に派遣した。

派遣目的としては、日中両国の考古学分野に関して、方法論的立場での認識や埋蔵文化財に対する取り扱いの意識について、学術的かつ技術的な交流を図るものである。また来年度、考古博物館で開催を予定している四川省との友好姉妹都市関係15周年を記念した文物展に備えた予備調査も含まれている。期間中、省文化庁などの専門行政機関への表敬訪問のほか、馬家郷遺跡など発掘後の保存状況の視察、文化庁主催の学術報告会や地方自治体関係者などとの懇談会に参加した。

9. 調査研究課内研修

調査研究課では、職員の資質向上のために毎月１回程度の割合で課内研修会を開催している。
本年度の研修会の内容は下記の通りである。

回	日　　時	講演・発表テーマ及び発表者	概　　要
1	平成11年４月28日	「平成10年度奈文研研修『報告書作成過程』に参加して」 当センター　野代恵子氏	資料を基に、感想を交えながら報告書作成の際の留意点を中心に研修の概要を話した。
2	平成11年６月30日	「県立博物館構想について」 県学術文化財課　中山誠二氏	県立博物館構想の現状について、博物館と埋蔵文化財センターとの関わりをふまえて説明した。
3	平成11年７月30日	「『出土品取り扱い基準について』の経緯と現状について」 当センター　長沢宏昌氏	文化庁通知等をうけ、当センター検討会の原案を提示して、その説明をおこなった。
4	平成11年８月31日	「遺物の梱包方法について」 当センター　今福利恵氏 小林公治氏	スライドを用い梱包の実例を示したのち、講師による土器梱包の実演後、全員参加での実習をおこなった。
5	平成11年９月30日	「財団法人の運営について」 財団法人山梨県スポーツ事業団 丸山正弘氏	県からの受託業務を中心に事業をおこなっている同事業団の組織・運営について、話がなされた。
6	平成11年11月30日	「資料普及への取り組みについて」 当センター　資料活用普及検討会	群馬・埼玉埋文の取り組みを視察した報告、出土品の活用についての提言に加え、教育普及活動の柱にすえることを想定した学校での授業の原案を示し、話し合いをおこなった。
7	平成11年12月27日	「地方分権に伴う文化財保護法改正について」 県学術文化財課　小野正文氏	法改正により、県に委譲される権限、市町村との関わりの変化等をはじめとして、法改正の要点を説明した。
8	平成12年２月29日	「中華人民共和国四川省における考古学分野の交流について　－研修報告－」 当センター　野代幸和氏	四川省の主な史跡の紹介をはじめ、文化財保護の現状について報告をした。

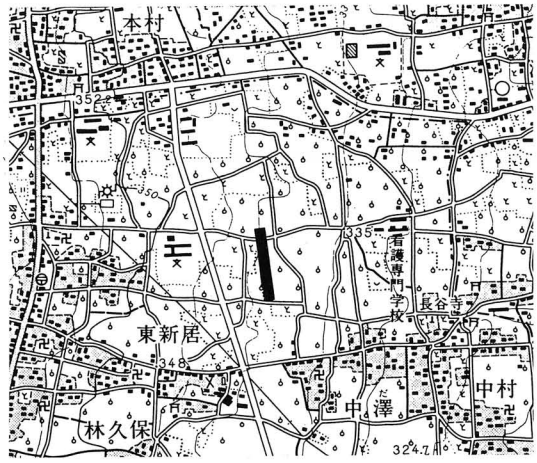
10. 寄贈・購入図書

今年度に当機関で登録された図書数は、約10,100冊である。現在約54,000冊におよぶ蔵書数があり、来所された方々や職員に幅広く活用されている。寄贈された本は、全国各県・市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要や、博物館・資料館などの企画展・常設展示図録が主であるが、今年度は大塚所長の個人蔵書の寄贈が約5,500冊あり、登録数が前年度に比べて大幅に増加した。この他、考古学・歴史の概説書や専門書、民族関係の書籍を60冊と雑誌関係を100冊あまり購入した。

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要

1. 百々（どうどう）遺跡①

所 在 地　中巨摩郡白根町百々地内
事 業 名　一般国道52号改築（甲西バイパス）
　　中部横断自動車道建設
調査期間　1999年5月11日～2000年1月6日
調査面積　8,720m²
担 当 者　小林公治・望月郁也・斎藤伸・田口明子



百々遺跡①　位置図

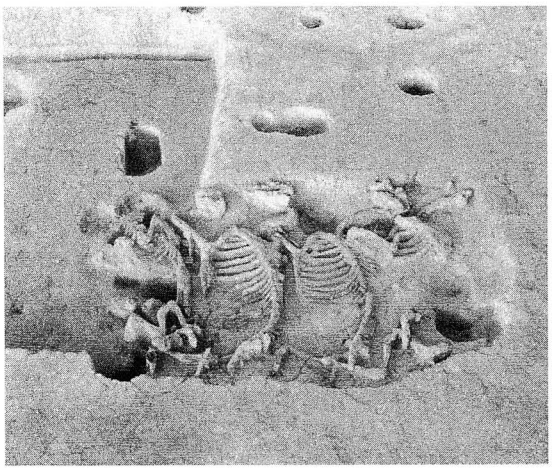
本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地上にあって、標高は約335mである。平成10年5月から6月にかけて実施された路線内試掘調査により遺構・遺物が確認された。主体は平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器であって、平安時代を中心とする巨大な集落の存在が想定され、2年がかりで本調査を行うことになり、今年はその1年目にあたる。

調査は、今年度の調査対象区域を便宜上①～③区に分け、本調査区は北側に位置する。

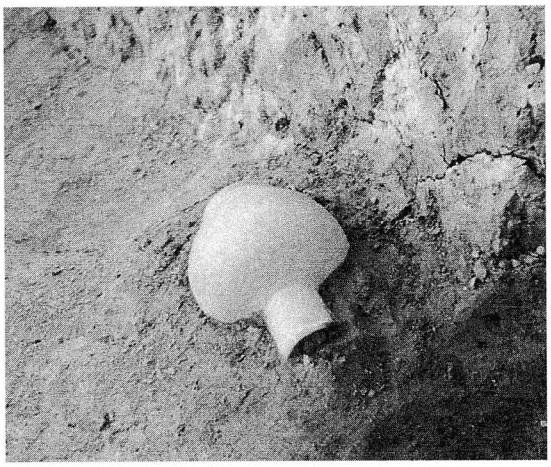
本調査を実施した地点から発見された遺構としては、住居跡80軒、掘立柱建物跡2棟、畝状遺構1基、溝16条、土坑23基、ピット762基を確認した。住居跡は、2～3軒重なっていたものもあって、ある一定期間この土地で落ち着いて暮らしていた様子がしのばれる。遺物としては、土師器の坏・皿・蓋・甕や須恵器の蓋・甕等が多く出ており、42号住居跡からは灰釉陶器の水瓶が出土した。58号住居跡に隣接する縦2.5m、横1.6mほどの18号土坑からは10世紀前半と思われる馬4頭の骨が確認され、19号土坑からは北宋銭が一枚出土した。また、I-138G地点で褐色粘土層の上部から弥生時代のものと思われる石鏃が3個折り重なるようにして出土した。最大の物は、長さ約36.5cm、厚さ約2.2cmで重さが約1.24kgであった。数多くあるピットの中からは、寛永通宝が1枚出ただけであった。その他には、鉄滓や植物の種と思われる炭化物等が発見されている。

18号土坑から出土した馬4頭の骨は並んで出土しており、ほぼ全形をとどめていた。これらはともに体高は、約1.2m～1.3mであった。頭部が同じ方向にそろえてあり、横向きに脚を折り畳んだ状態で埋葬されていた。埋葬状況から同時に葬られた可能性が高く、古代の馬の姿を知る上に貴重な資料の一つになると期待している。また、当時馬は儀式にも利用されたことから、何らかの祭祀が行われたのではないかと考えられる。さらに、鎌倉時代以降の八田牧と地理的に一致することから、八田牧につながる牧場経営が行われていたのではないかとも推測される。

白根町は、今まで洪水が多く発生し、古代の遺跡があるとは考えられなかった地域であった。しかし、今回の調査によって、あるまとまった集落がこの地域に存在したことは間違いないことが判明した。今後本遺跡は、この地域一帯の集落を解明するうえで貴重な資料の一つとなるであろう。



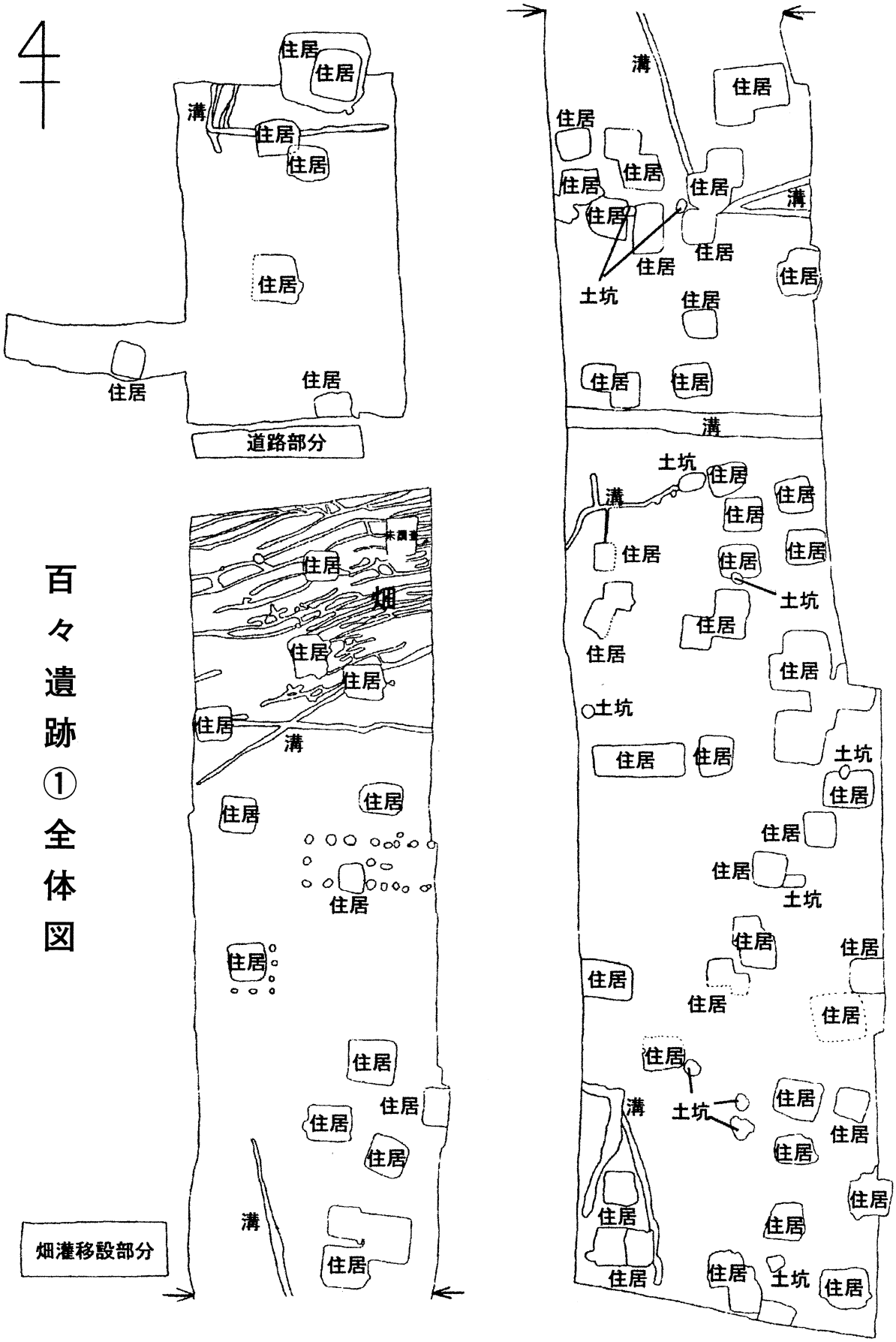
馬骨出土状況



灰釉陶器の水瓶出土状況

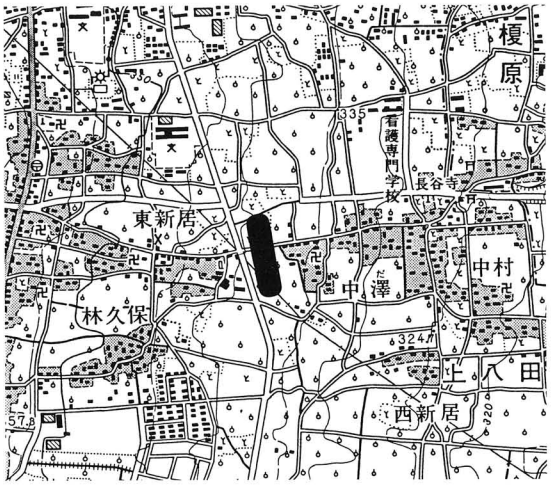
4

百々遺跡①全体図



2. 百々（どうどう）遺跡②

所 在 地　中巨摩郡白根町百々
事 業 名　一般国道52号改築（甲西バイパス）
　　中部横断自動車道建設
調査期間　1999年5月11日～12月27日
調査面積　8,720m²
担 当 者　保坂康夫・小林広和・今福利恵・勝俣　透



百々遺跡②　位置図

百々遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地上にあって、標高は約335mとなる。甲西バイパスの建設によって南北800mの範囲に遺跡が広がっていることがわかっている。調査体制の都合により①～③地区に遺跡をわけているが、本来は一連の遺跡である。百々遺跡②は、調査対象区域のほぼ中央部分になる。

今回の調査において平安時代のムラの跡がみつかり、時期的には9世紀後半から10世紀前半に集中する。②地区では竪穴住居跡が50軒、掘立柱建物が11棟、溝状遺構数条、畝状遺構3ケ所、土坑多数が検出された。竪穴住居跡は方形プランとなり、一辺4mほどのものが多数をしめており、中には2mほどの小型ものや5mを越える大形のものもみられる。住居に付属するカマドは住居の東壁の南よりにつくられ、まれに二基のものがある。残存状況の良いものは煙道がトンネル状にみられる。住居の配置は大きく南北の二群にわかれ、南側は散在しながら28軒、北側ではまとまって22軒で、そのあいだには畝状遺構が存在している。南側の地区ではこの畝状遺構を壊すように住居跡が重複しており、先後関係がみられる。また調査区内には後世の河川跡がいくつか横切ってみられ、当地が扇状地扇央部の洪水の著しいところであったことを物語っている。

出土遺物は坏、碗、皿、甕などの土師器甲斐型土器や信州系の内面が黒くなっているもの、さらに須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器がめだっている。鉄器をつくるときにみられる鉄滓を出土する土坑やフイゴ羽口もみられ、鉄滓の状態から精鉄をおこなっていた可能性もある。鉄器では住居跡などから、やっとこ、鎌、刀子など30点ほどが出土している。

特殊なものとしては、11世紀代の住居跡のカマドの脇から八稜鏡が出土した。カマドの脇に小さな穴があり、この中にある石に寄り掛かるよう鏡面を上にして置かれていた。この住居跡の形態に特殊性はみられない。鏡の文様は瑞花双鳥である。銅製で、直径は約85mm、厚さ2mmをはかり、遺存状態は良好である。錆の付着状況から、布にくるまれていた様子や箱に入れられていたという痕跡はみられない。また他の住居跡の覆土中より「神功開宝」の銅銭が出土し、山梨県下では二例目となる。この出土の状況に特殊性はみられない。依存状況は悪く、一部破損しているが、文字は判別できる。さらに巡方の石帯が住居跡から一つ出土している。

自然遺物では、この百々遺跡②地区だけで、獣骨が約40体分みられた。特にこの調査区の南側の住居跡周辺で集中しており、約30体分がここからの出土である。大部分が牛、馬の頭骨であり、判別できるものでは牛が多くみられる。出土の状況に特殊性は認められず、特に遺構に伴うものでもない。

百々遺跡の周辺は10世紀に編纂された「和名抄」にある巨麻郡の等力（とどろき）郷に比定する説が古くからある。また「続日本後紀」の承和2年（835年）に巨麻郡馬相野空閑地五百町を葛原親王（桓武天皇の第3皇子）に与えたとあり、この馬相野空閑地が白根町、八田村に相当するとされている。今回の調査で、大規模な平安時代集落が発見され、これの文献資料との関連が注目されるところでもある。

地元白根町教育委員会や郷土研究会、教員研修会、小学校、中学校など多数の方が見学に訪れた。また小学校、中学校による体験発掘も7回ほど行い、参加者は450名をこえた。さらに遺跡の現地説明会を①地区と③地区との共同で開催し、地元の方々を中心に約300名の参加者があり、周辺地域への公開にも努めたところでもある。

一般的な竪穴住居跡　奥の壁にカマドがついている。このカマドの右側より八稜鏡が出土した。

八稜鏡の出土状況　カマドわきにある浅い穴の中から、石によりかかって出土した。

住居跡からみつかった鉄製の鎌　土の中にあったため錆びているが、かたちがよくわかる。

百々遺跡②の北側の調査区　手前側に竪穴住居がたくさんある。

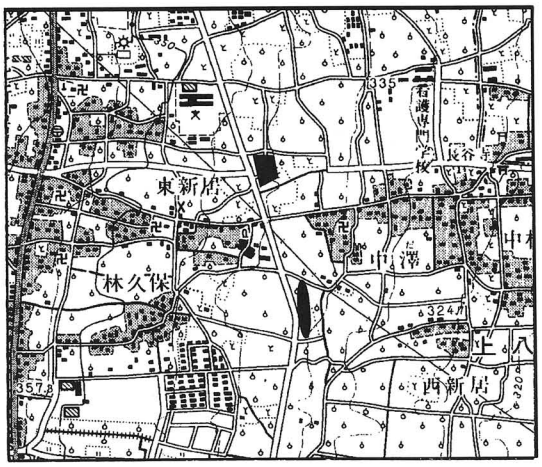
銅銭「神功開宝」は住居の床面に近い覆土中からみつかったが、錆がひどく残り方はよくない。

動物の骨　残っているのは歯の部分だけであるが、形から馬とわかる。儀式のいけにえとして捧げられたのだろう。

↑はじめて遺跡の発掘を体験する小学生はとても楽しそう。
←空から見た百々遺跡。調査区の向こうには高速道路がつくられている。

3. 百々（どうどう）遺跡③

所 在 地　山梨県中巨摩郡白根町百々地内
事 業 名　一般国道52号改築（甲西バイパス）
　　中部横断自動車道建設
調査期間　1999年5月17日～12月28日
調査面積　8,720m²
担 当 者　依田幸浩・田中宗博



百々遺跡③　位置図
…1・2区　…3区

本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使（みだい）川扇状地扇央部の標高335m付近に位置する。

百々遺跡③は1・2区と3区の2カ所の調査区に分けることができる。1・2区は遺跡の南端部にあたり、3区は百々遺跡①・②の間に位置し遺跡全体の中央部にあたる。

1区は本年度の百々遺跡の発掘調査の南端にあたる。畝状（うねじょう）遺構が調査区北側に確認され、集落の外れ付近であると思われる。平安時代の住居2軒、中世の畑の跡と考えられる畝状遺構群、ピット群が確認された。また、調査区南端部には旧御勅使川と思われる河道が確認された。

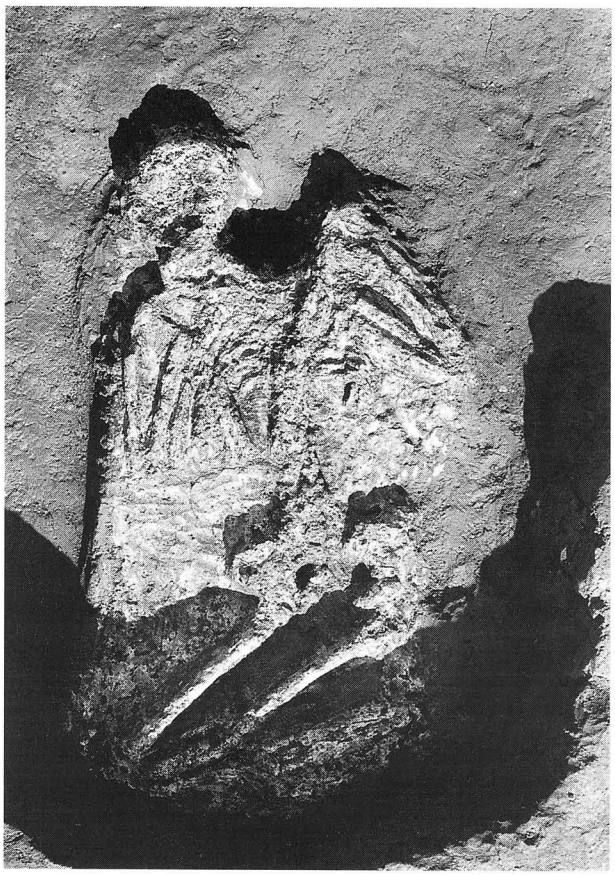
2区は畝状遺構が大きく分けて2カ所確認されている点で1区と類似しているが、北に向かって住居跡等の遺構の密度が濃くなっている点で1区とは様子が異なる。住居の配置については、南北に隣接する傾向がある。遺物については信州系の内黒土器や墨書・刻書土器等を含む土師器が多数出土した。また、灰釉（かいゆう）陶器や鎌などの鉄製品も出土した。2区では、平安時代の住居20軒と平地式住居1軒、平安時代・中世の畝状遺構群、ピット群が確認された。

百々遺跡②を挟んで北側が百々遺跡③3区にあたる。3区では平安時代の住居46軒、中世の溝、ピット群と溜池状遺構が大小含めて5ヶ所確認された。住居の配置には特に偏りが見られず、調査区全域に散在している。また、重複している住居も多数確認され、長期にわたって居住していた様子をうかがうことができる。住居に付属するカマドは東壁の南寄りにつくられたものがほとんどであるが、北壁の西寄りにつくられたカマドや、2基確認された住居もある。

3区の特徴としては、まず、船底形の溝状遺構が挙げられる（挿図）。全長5～6m、深さは約1mの遺構で、覆土に多量の炭が混入しており、12世紀の常滑（とこなめ）焼の大甕、角釘や刀子などの鉄製品などが出土している。火焼面等が確認できず、火を使った施設ではないようであるが、今後の土壌分析（炭化材同定等）で明らかにされることを期待する。溜池状遺構はほぼ円形プランの遺構である（挿図）。大きいもので直径5～6m、深さは一番深い溜池状遺構で約1.7mある。底に20～30cmの大礫が多量に検出され、覆土中で陶器片や角釘等の鉄製品、北宋銭が出土した。調査区西端では、埋葬された人骨がほぼ完全な形で検出された（挿図）。また、22・23号住居の間では馬と思われる獣骨がほぼ完全な形で検出された（挿図）。人骨・獣骨ともに土壌化が進行しており、遺存状態が悪く、出土状態のまま採取することができなかったが、今後の分析で年代・性別等が推定できることを期待する。

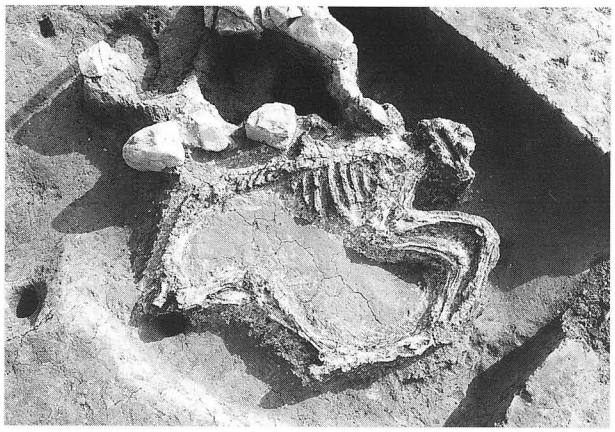
百々遺跡①・②ともに、牛馬の骨が多数検出されていることからも、この地域が中世における「八田牧」につながる可能性が高いと考えられる。甲府盆地西部の古代史を解明していく上で、この百々遺跡は貴重な資料を提供するものといえよう。

今回の発掘調査は、特に地元の関心が高く、白根町立白根御勅使中学校での講演会をはじめ、小中学校を対象とした見学会や発掘体験学習も実施された。発掘調査と平行しながら、周辺地域への啓蒙普及活動の実践に努め、且つ、反響の大きな発掘調査であった。

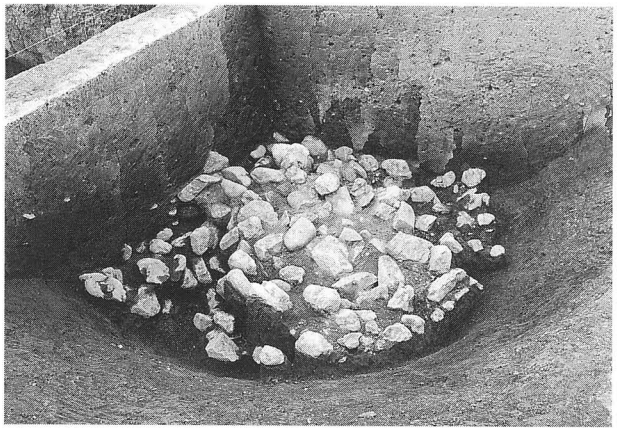


人骨出土状況

3区溝状遺構



獣骨(馬)出土状況



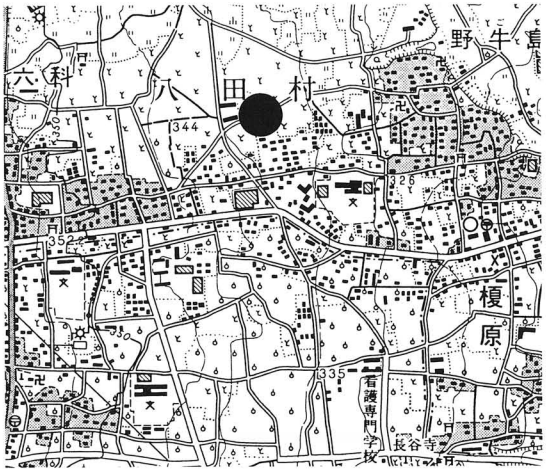
溜池状遺構

土器出土状況(3区18号住居跡)

現地説明会の様子

4. 立石下遺跡（たていしした）

所 在 地　中巨摩郡八田村野牛島字立石下 2586 － 1 外
事 業 名　一般国道 52 号改築（甲西バイパス）
　　中部横断自動車道建設
調査期間　（1 区）1999 年 4 月 28 日～ 7 月 31 日
　　（2 区）1999 年 4 月 28 日～ 12 月 22 日
調査面積　約 14,100m²
担 当 者　（1 区）望月郁也・田口明子
　　（2 区）米田明訓・熊谷栄二



立石下遺跡　位置図

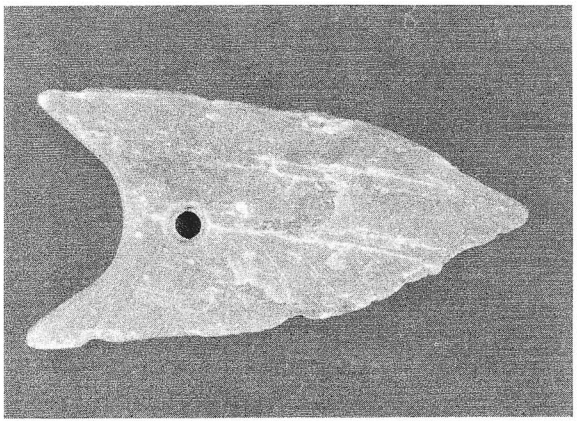
本遺跡は、御勅使川扇状地扇央に位置し、平成 7 年度に調査が行われた大塚遺跡の南約 80m、平成 9・10 年度の石橋北屋敷遺跡の東南約 30m に位置し、標高は 335m を測る。八田村では、扇状地上に位置するという地形的な理由などから、これまで本遺跡東南約 100m に位置する赤山遺跡（縄文時代）のみが周知の遺跡として考えられてきた。しかし平成 7 年以来、大塚遺跡・石橋北屋敷遺跡といった奈良・平安時代以降の遺跡が発見され、また、一昨年の試掘調査によって、本遺跡とともに中世～近世の水田跡が見つかった仲田遺跡（本年度調査 - 石橋北屋敷遺跡の東に隣接）の存在も確認された。

調査範囲は、事業計画道路幅の約 50m ×約 280m の約 14,100m² で、範囲のほぼ中央を東西に用水路が走り、これをもって北を 1 区、南を 2 区と設定した。

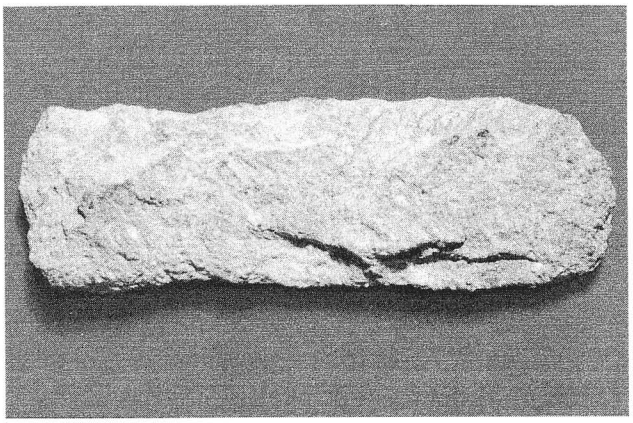
調査の結果、平安時代中期前半（9 世紀前半～中頃）の住居跡 13 軒、掘立柱建物跡 5 棟、炭焼窯 5 基、溝 4 条、土坑数十基、他に時代不明の溝 16 条を検出した。2 区 7 号住居跡からは、完形の土師器坏 1、須恵器坏 2、計 3 点とともに、奈良三彩の小壷片 2 片が出土した。県内で奈良三彩が確認されたのは、10 年前に韮崎市の宮ノ前遺跡で出土した小壷の蓋に次いで 2 例目である。この住居は他の住居跡と比較し、一辺が約 2.7m とひとまわり規模が小さい上に、唯一西壁にカマドを有していた。

平安時代遺構面の調査終了後、2 区中央部約 3,000m² を対象に、弥生時代の包含層の調査に移った。遺構は検出できなかったが、縄文時代晩期～弥生時代前期にかけての土器片及び石器、黒曜石など約 600 点余りが出土した。特筆すべき点は、弥生時代前期のものと考えられる石鏃で長さ約 27cm、幅約 9cm で、これは県内最大級である。他に弥生時代でも若干時期が下ると思われる、珪質粘板岩製で長さ約 4cm、幅約 2cm の磨製石鏃が確認された。

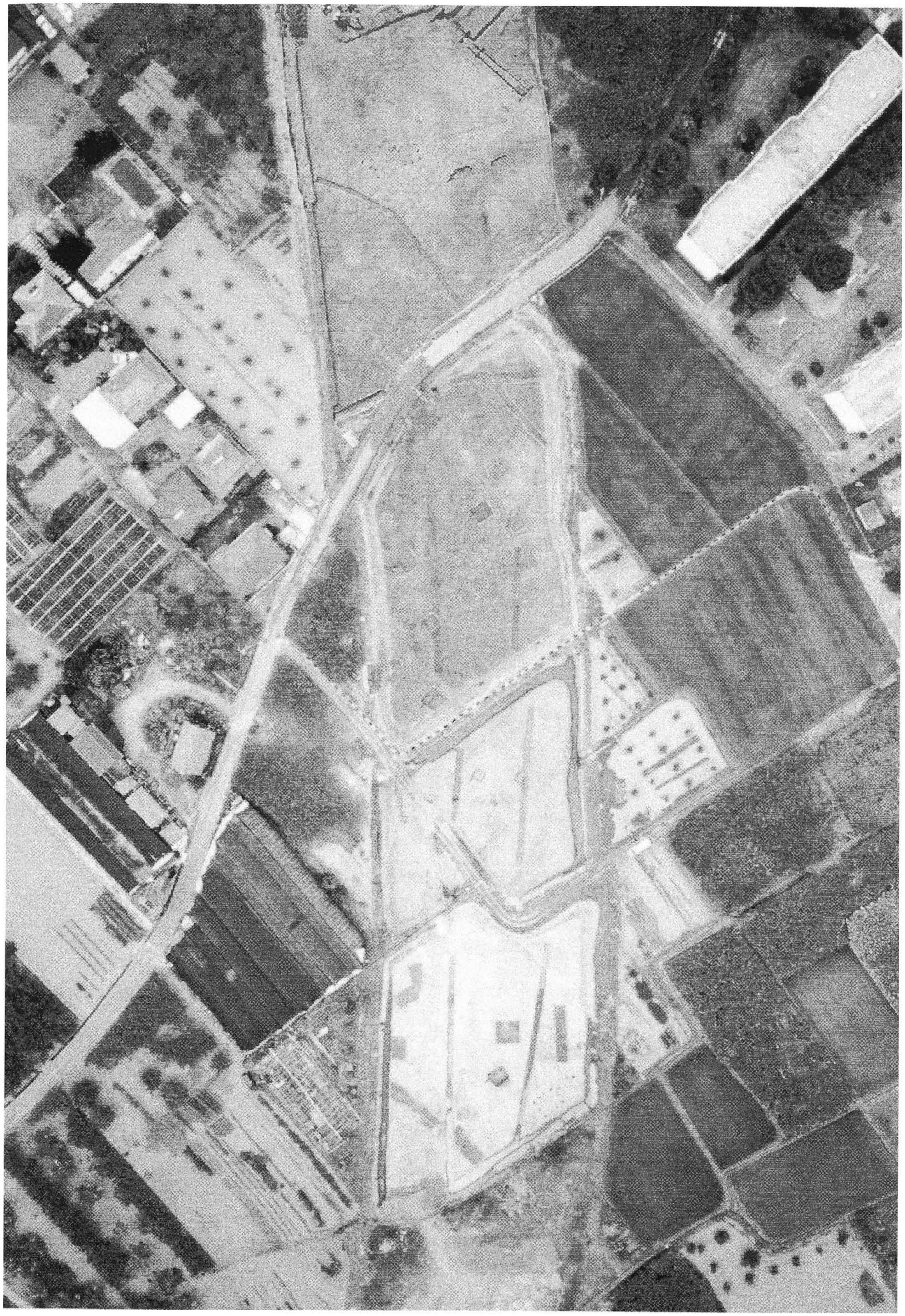
今まで考古学的な資料の少なかった八田村ではあるが、次々に遺跡がその姿をあらわしてきている。今回の調査から得られたものは決して多くはないが、大塚遺跡、石橋北屋敷遺跡、大塚遺跡（本遺跡の北、前記 2 遺跡と隣接－村教育委員会が本年度調査）、そして本遺跡を含む地域一帯の歴史を解明する大きな材料となることは間違いないだろう。



磨 製 石 鏃



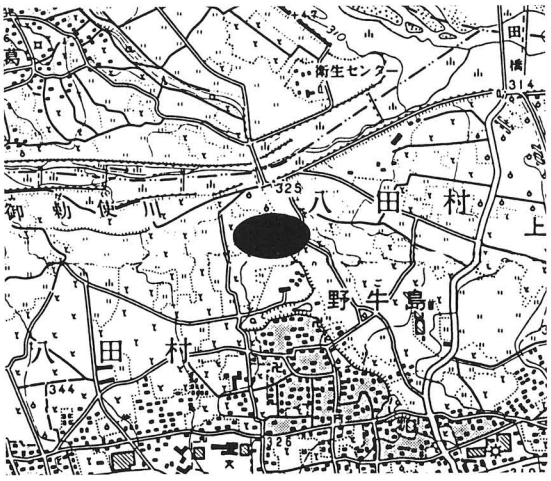
打 製 石 鏃



立石下遺跡　全景

5. 仲田遺跡（なかた）

所 在 地　中巨摩郡八田村野牛島761外
事 業 名　一般国道52号改築（甲西バイパス）
　　中部横断自動車道建設
調査期間　1999年5月6日～10月18日
調査面積　約7,000m²
担 当 者　山本茂樹・湯川修一



仲田遺跡　位置図

本遺跡は、富士川（釜無川）右岸、西から合流する御勅使川の扇状地扇端部近くに位置する。標高は322m前後。付近は、北西から南東方向に下る緩斜面状を呈するが、南北に微高地を抱えており、狭間の浅い窪地が本遺跡の立地である。また、本遺跡の東まではかつての釜無川の氾濫原にあたり、そのため、南北の微高地それぞれの東端は浸食崖を形成し、それは途切れながらも南へ数kmにわたり続いている。なお、本遺跡の北西には平成7年度に調査された大塚遺跡が、西隣には平成9～10年度に調査された石橋北屋敷遺跡がある。

調査区は、2本の水路によって3区画に分断されている関係で、東から1～3区を設定し、調査をすすめた。その結果、1～3区を通して調査区の南端に蛇行した旧河道の跡が続き、水田跡はおおむね北半部に広がっていることが確認された。また、水田面は厚い砂利層の下にあり、各所で畔が損失していることから、洪水により水田が押し流され、土砂に埋没したことが想定される。水田面は全体で11枚確認されたが、道路幅の調査のため1枚あたりの面積は不明である。畔は2，3区では等高線に平行方向のもの6条がみつかり、水田面はそれぞれ十数cmの比高差が見られた。また、1区では大型の礫を伴った東西方向のものが確認された。

1区の西側では、ほぼ南北方向に礫が2列をなし（石列）、東側のそれは大型の礫で構築されているのに対し、西側は小ぶりのものがまばらに置かれていた（写真2）。石列間の幅はおおむね2m。状況から、道の跡ではないかと考えられる。というのは、石列間に砂利等が入れられ人為的な堆積状態を示していたことや、突き固めたと思われる非常に堅い面があったことによる。この石列は畔を壊してつくられており、水田より新しい時期の遺構ととらえることができる。また、その筋をたどると北は赤山と呼ばれる微高地、南は旧諏訪神社社地の脇を抜けて遠方に延びている可能性も想定される。また、足跡群は1～3区にわたってみられたが、この2区においては、畔に直交する方向と並行する方向の2方向が確認された（写真3）。このことは田植え・稲刈りなど農作業の営みと関わりがあるものと考えている。3区では水田床面を掘削したところ、赤茶けた鉄の塊が互いに絡み合うような形で斑状に広がっていた。これは酸化鉄であり、上部にある水田が湿潤と乾燥を繰り返す、すなわち、何らかの形で引水と落水が行われていた証左であると考えられる。しかし、水路等の関連遺構は発見できなかった。また、一部の水田には大きな石を使って畔状に側を固め（写真4）、水田を保護するためと考えられる施設が存在した。この施設の西側の一段高い面上には耕作の痕跡は認められない。また、旧河道の砂利層を掘削中に、骨・北宋銭・青磁片・素焼き土器から寛永通宝・文久永宝までさまざまな種類と時代の遺物が出土した。

水田が営まれた時期については、水田面のすぐ上の砂利層から北宋銭や青磁片、素焼き土器片が出土しており、その部分からは江戸時代の遺物が認められないことから現段階では鎌倉時代から室町・戦国時代を想定している。ほとんどの遺物は洪水などにより遺跡の外部から流れこんだものと予想されるため、決定は難しいが、西隣の石橋北屋敷遺跡で中世の遺構や遺物が発見されていることからもこの時期とするのが妥当だと考えられる。

写真1　1区　調査風景
足跡を確認する作業

写真2　1区　道跡
北から南方向をのぞむ。画面中央やや上、左右(東西)方向の石列は畔跡。右奥の微高地は旧諏訪神社社地。

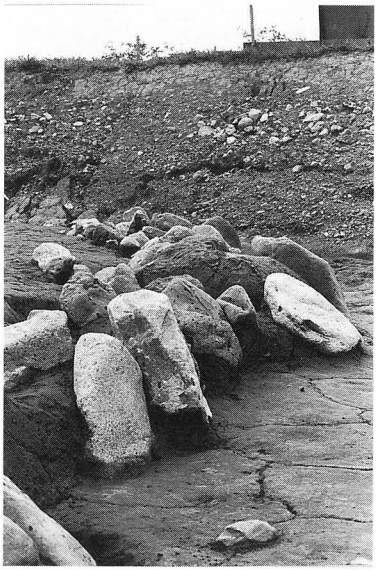
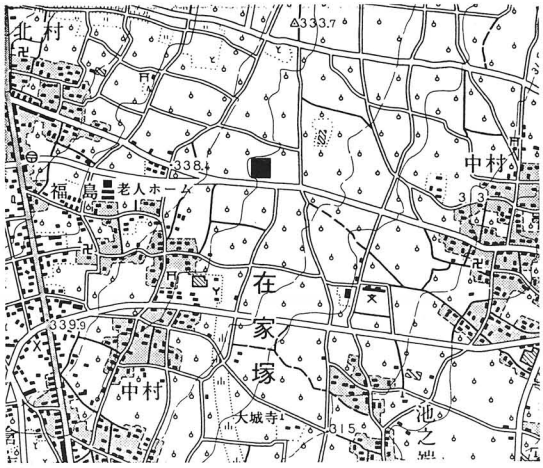


写真4
3区　畔状の石列
石列の右(東)は水田跡。左(西)には、一段高い面が広がる。

写真3
2区　全景
画面右(北側)に広がる水田跡には2方向の足跡群。左(南側、溝状の掘削より左)は旧河道。

6. 横堀（よこほり）遺跡

所 在 地　中巨摩郡白根町在家塚1538外
事 業 名　中部横断自動車道白根インターチェンジ建設
調査期間　平成11年5月14日～7月26日
調査面積　約1,000m²
担 当 者　深沢容子・野代恵子



横堀遺跡　位置図

横堀遺跡は、中巨摩郡白根町在家塚字横堀地内、標高328mの地点に所在し、御勅使川扇状地の扇央部に位置する。地表より3.5～4mのところにあるおよそ40cmの厚さをもつ黒色粘質土中に遺物がみられる。この上部には厚い礫層が発達している。また、黒色粘質土層の下部にも礫層がみられることから、本遺跡が営まれた弥生時代前期から中期には、一時的に水域から分離され、安定した土地が形成されたものと考えられる。白根町内においては、これまでに確認されている遺跡は10数カ所であったが、中部横断道建設に伴う一連の発掘調査で横堀遺跡のほか、複数の遺跡が確認されている。

調査は、約1,000m²について行った。調査区のうちほぼ北半分については、南半分で土器を含む黒色粘質土層にあたる部分がかなりシルトがかっており、遺物もほとんど含まれないことから、12本のトレンチを入れてみたが、遺構・遺物は確認されなかった。よって、調査区の南半分について重点的に調査を行った。

遺構については、人為的なものは、まったく発見されなかったが、風倒木らしきものの痕跡が何か所かで見つかっている。遺物としては、弥生時代前期から中期初頭の土器片が2,000点あまり出土しており、そのほとんどは、マッチ箱程度の大きさの土器片だが、なかには、大きな破片がかたまって出土する場所もあった。この他、打製石鏃、横刃形石器などもみられる。石器の中には、擦痕らしきものが認められるものもあった。また、流れ込みと思われる縄文時代後期の土器片や土製スプーンの破片もみられた。遺構としての住居跡は確認されなかったが、土器片や石器などが集中してみられる場所もあり、その分布傾向や土器の接合状況には一定の片寄りがみられることから、弥生時代前期から中期初頭の遺物については、単なる流れ込みによるものではなく、生活面に伴うものであると考えられる。

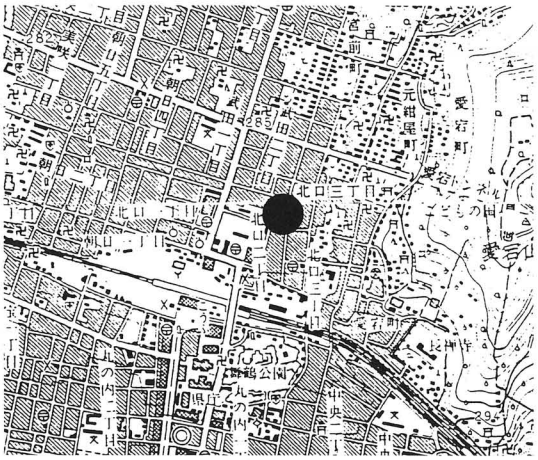
ただし、焼土の集中箇所など住居の範囲を想定させるような明確な痕跡は発見されていない。また、出土した炭化物の自然科学分析からは、クリやクヌギが確認されている。

この時期の遺跡については、近年徐々に遺跡数も増加し、その内容も明らかになりつつある。今回の調査も、扇状地における該期の遺跡の存在を示す一例となったが、今後、周辺遺跡の内容と比較検討することにより、この時期の状況がより一層明らかになっていくことであろう。

調査区南壁

7. 日向町遺跡（ひゅうがまち）

所 在 地　甲府市北口2丁目
事 業 名　甲府駅北口公用車車庫建設
調査期間　1999年4月20日～5月20日
調査面積　480m²
担 当 者　八巻与志夫　宮里学



遺跡位置図

甲府駅北口公用車車庫建設に先立ち、平成10年度に予定地の試掘調査を実施している。建設予定地周辺が国史跡武田氏館跡を中心に展開した中世城下町の南端に推定され、さらには県指定史跡である甲府城の追手門に近接し、絵図資料などにより当時の武家地が存在したことが判明している。

したがって、建設予定地とその周辺には中世から近世にかけての城下にあたることは明白であり、埋蔵文化財が存在していることはほぼ確実であった。

同センターでは、約500m²の建設予定地に対し15％の試掘調査を実施し、建設予定地内で古墳時代・中世から近世・近代以降の土器類・石製品・鉄製品類などの遺物と、中世から近世にかけての土坑や溝などの遺構を確認し、平成11年4月より同センターが発掘調査を実施するにいたった。

本遺跡が所在する甲府市北口2丁目は甲府駅に近接していながら、多くの民家が建ち並ぶ比較的静かな居住地域である。調査区周辺の標高（海抜）は約282mである。

周辺の環境は、東に愛宕山（423m）と藤川があり、南には近世に甲府城が築城された一条小山と呼ばれる独立した丘陵が存在したところである。

遺跡の立地する地形は、秩父山系から湧き出し、甲府市北部の山裾より盆地へ流れ込む藤川・相川により形成された扇状地に区分される。したがって、調査地点周辺の地形は北から南にむかって傾斜しており、これは発掘調査の結果からも調査区範囲内でわずかに北から南に傾斜して土壌が堆積していることが判明している。

発掘調査では、遺物の総出土量は約500点（一括資料を含む）、遺構は土壙1基、柱穴13基、溝7本、柵列2本、埋甕10基が検出された。ただし、遺構出土遺物が少なく所属年代を明確にできるのは土壙のみで、溝については甲府市教育委員会が実施した隣接地での調査結果から連続性が窺え中世に属すと考えられる。

土壙については、上面の中央部で近世のかわらけの完形品が2点、古銭が8枚（内4枚は寛永通宝）、その他にかわらけの破片、瓦片と炭化材が集中して出土している。覆土からは、遺物がほとんど出土していない。この出土状況から墓への供え物と考えられ、近世の墓である可能性がもっとも高いといえる。

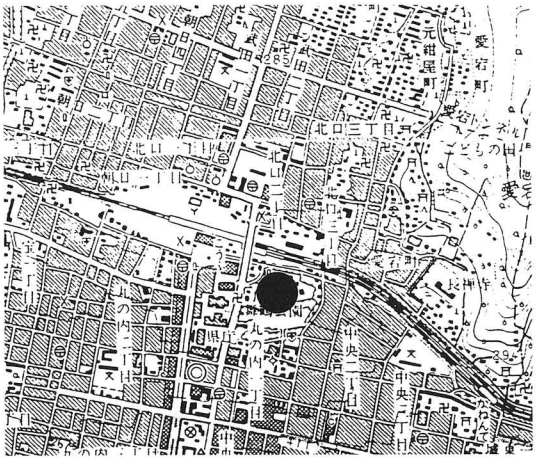
遺物は、中世陶磁器とかわらけ、近世では陶磁器とかわらけの他にキセルや古銭などが出土しているが、調査区中央を中心に散在して出土する傾向にある。

土壙完掘状況（南より）

調査区風景（南より）

8. 甲府城跡（こうふじょう）〔県指定史跡〕

所 在 地　甲府市丸の内1丁目
事 業 名　舞鶴城公園整備事業
調査期間　1999年4月1日～2000年3月31日
調査面積　3,000m²
担 当 者　八巻与志夫　宮里学



遺跡位置図

平成2年度から着手された舞鶴城公園整備事業に伴う発掘調査の本年は9年目にあたる。調査も終盤に差しかかり調査面積も減少の傾向にあるが、断続的な発掘調査を実施し、また史跡内の歴史的建造物の復元について調査検討を重ねてきた。ここでは、主な調査地点の概要を述べる。

（稲荷曲輪門下斜路）

現在園路として利用されている舗装を除去し調査をおこなった。検出された遺構は瓦溜2基、井戸1基（掘削途中の未完成）、石組み水溜、柱穴4基が確認されている。瓦溜は小規模で江戸中期以降の瓦が主体であった。井戸は直径2mの円形の穴を岩盤に掘削しているものであるが、岩盤を80cm掘削したところで停止している。理由は不明だが地形や湧水しないことなどの原因で途中放棄したと考えられる。石組み水溜は、絵図などに記録のない遺構である。大きさは1×2m程度で岩盤の自然傾斜を巧みに利用し造られている。北立面は岩盤面で常時出水しており、この水を溜める目的であったと思われる。東・西・南・は自然礫を70cmほど積み、底部は岩盤である。馬の水飲み場と推測できる。柱穴4基は1m四方にまとまって検出された。石垣の真下であることから石垣積みの際に造られた足場などの柱穴と考えられる。

（鍛冶曲輪南東堀・東石垣下堀）

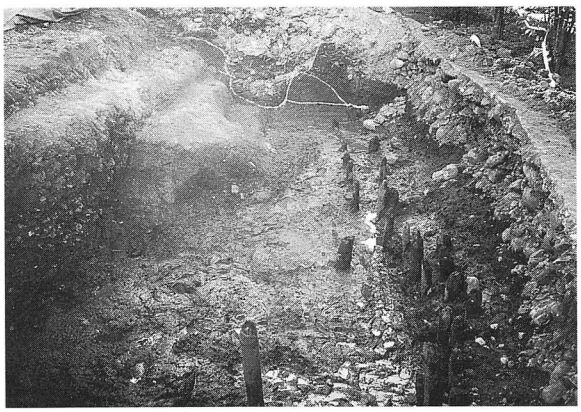
近年まで住宅地などがあり、整備に伴い移転した跡地である。現在整備されている堀に連続するもので、絵図などでも堀の存在は明確である。調査範囲が狭い反面堀は深く、また出水が激しいため全面を調査することは困難で、さらに戦後堀を埋めて宅地にする際に相当量の廃棄物が投げ込まれ、地面が安定せずに調査は難航した。

検出されたのは上記の理由により部分的ではあるが、堀の底部とノリ面が確認された。近世に属す遺物は瓦やかわらけ・陶磁器類などであるが少量である。また、堀の堆積土に刺さるように焼夷弾が5本、5m四方から出土し、内2本は完全な形であった。

（稲荷曲輪機関車跡地）

青少年科学センター所有のディーゼル機関車周辺を調査した。検出されたのは瓦溜で7mを越える大きなものであるが、目下調査中のため詳細は不明である。

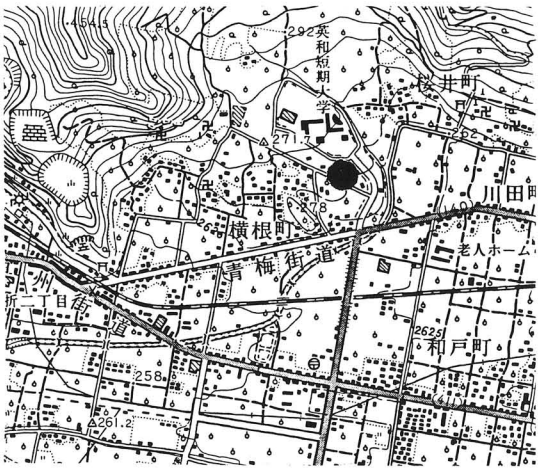
稲荷曲輪門下　石組水溜　（真上より）



鍛冶曲輪南東堀跡　（東より）

9. 道々芽木遺跡（どどめぎ）

所 在 地　甲府市横根町875外
事 業 名　新環状・西関東道路建設
調査期間　1999年4月27日～6月28日
調査面積　800m²
担 当 者　長沢宏昌　三森鉄治



道々芽木遺跡　位置図

本遺跡の所在地、甲府市横根町は、甲府盆地の北部、大蔵経寺山の南麓に位置し、地内には積石塚や古墳時代～平安時代にかけての集落跡からなる大坪遺跡があることで知られている。また、調査区域の近隣を流れる十郎川の下流で以前に行われた発掘調査でも、平安時代の坏が大量に重なり合った状態で出土していることから、この周辺に土師器の焼成場所が存在したのではないかと推測される地域でもある。

今回の調査は、山梨英和短期大学正門前を左に折れてすぐの畑地800m²（幅5m、長さ160m）を対象とした。調査の結果、弥生時代から平安時代にかけての遺構・遺物が発見された。

古墳時代の遺構は、中期の溝1条、後期の住居1軒、溝1条、平安時代の遺構は末期の溝1条、井戸2基等である。

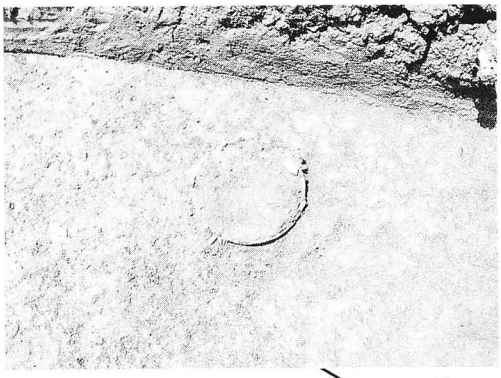
古墳時代中期の溝（1号溝）は底面近くの一部が確認されただけであるが、高坏、甕、坏等が多数出土した。県内では発見件数が比較的少ない時代に当たることから、今回の遺物は貴重な資料になると考えられる。また、この1号溝と接する区域から、埋甕が出土した。この時代では稀有な例であり、県内ではほとんど前例がない発見と言える。埋甕内の土は、科学分析調査を依頼する予定だが、その結果次第では当時の習俗を探る新たな手がかりとなる可能性もある。埋甕周辺には住居が存在したと推測されるが、調査区全域にわたって覆土の削平が遺構確認面にまで及んでいるため、遺構のプランを確定するのは困難な状況であった。

古墳時代後期の住居（1号住居跡）からは、大量の土師器、須恵器等が出土した。なかには、数個体が重ね合わさって出土したものもある。竈は住居の北壁中央部に一部が確認されている。削平により残存状況はよくないものの、完形に近い甑が出土した。また、隣接する3号溝からも同時代の遺物が多数出土しているので、今後の整理作業を通して1号住居跡との関連性を検証する必要がある。

平安時代の溝（2号溝）からは、数百個体の坏、皿などが重なり合うような状況で出土した。わずか10m²（幅2m、長さ5m）程度の範囲からの出土としては異例なことである。この溝から出土した遺物の質とその出土状況から考えると、焼成に失敗した土器の廃棄場所と推定され、土師器生産地の存在を裏付ける資料としても貴重な発見となった。また、これらの遺物に混ざって、土馬の頭部と右前脚が出土した。この土馬は頭部の成形に特徴があり、面取りがみられる。このような成形と確実に平安時代に遡るという点で特筆される資料である。

さらに、平安時代の井戸（2号井戸）からも完形を含む数十個体の坏が出土しており、投棄された形跡が認められることから、当時の生活様式と井戸との関わりを探る上でも重要な発見と言える。

1号住居（古墳時代後期）



埋甕出土状況

1号溝
（古墳時代中期）

1号井戸（平安時代）

3号溝（古墳時代後期）

2号井戸（平安時代）

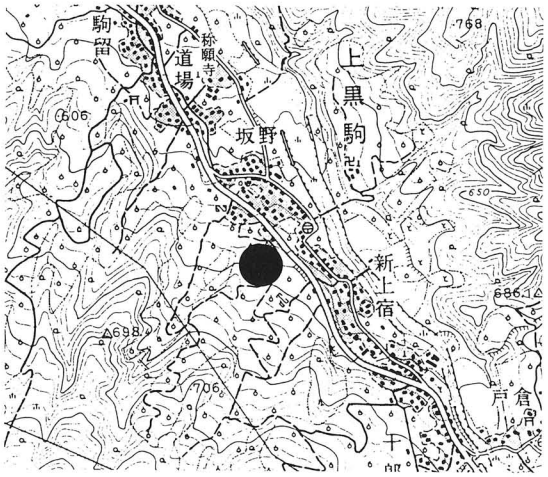
2号溝（平安時代）

0　16m

道々芽木遺跡調査全体図

10. 上の原下割遺跡（うえ はらしもわり）

所 在 地　東八代郡御坂町上黒駒字上之原下割489外
事 業 名　国道137号改築（上黒駒バイパス）
調査期間　1999年5月10日～8月9日
調査面積　3,000m²
担 当 者　出月洋文・長田雅巳



上の原下割遺跡　位置図

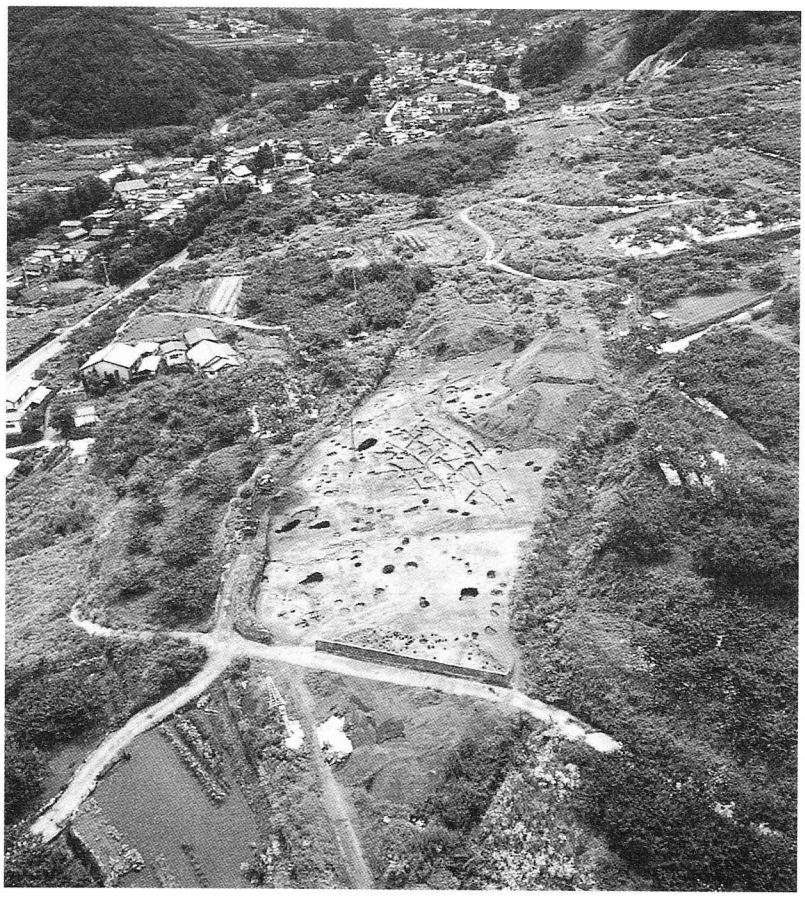
本遺跡は、甲府盆地東部に連なる御坂山塊の末端部に形成された桂野台地上に位置し、標高は約584～594mとなっている。

この発掘調査は、昭和63年に開通した中央自動車道一宮・御坂インター供用により建設された国道137号のバイパス延長に伴う事業であり、平成10年12月に実施された試掘調査を受けて、約3,000m²の面積を対象に平成11年5月10日より実施した。

調査の結果、本遺跡は縄文時代と中世の複合遺跡であることが確認された。本遺跡は調査区東側に向かって沢状の地形を呈している。縄文時代にはこの地形を利用した狩場としての性格を持っていた遺跡と考えることができる。その根拠として多数の陥し穴や狩小屋とも考えられる小規模な竪穴住居も1件確認されている。その他の遺構としては、縄文時代中期前葉から中葉（新道・藤内式）の土器を伴った墓坑が3基確認された。

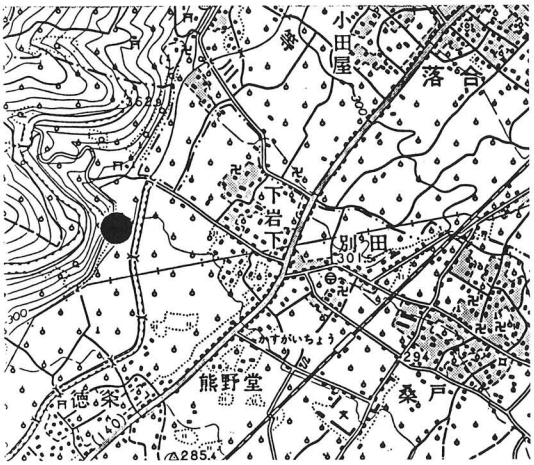
また、中世の遺構としては竪穴状の建物跡3棟、地下式坑10基、墓坑2基、溝状遺構1条などが確認された。竪穴状の建物跡については、3棟とも完全な形として確認されていないため形態及び性格などはっきりとしたデータはつかめていないが、床面から検出された焼土跡や出土遺物から工房的な性格をもっていた建物と推測される。今回の調査で数多く確認され注目されるものに地下式坑がある。地下式坑は竪坑と横坑とに分かれており、その形態や規模は多様である。また、横坑の壁面には、掘削したときについたと思われる工具痕が明瞭に残っているものも確認されている。地下式坑の用途については従来から多くの説が出され不明な点が多く、今回の調査でもその用途を裏付ける遺物等は確認されなかった。しかし、御坂町では初めての調査例であり、また、これら中世の発掘成果は、古代から中世にかけての重要な道である「甲斐路」との関連も想起され、今後の当該地域の歴史文化を考える上での好資料になるものと考えられる。

なおこれから本格的な整理作業を開始するが、各時代ごとに検討しなければならない問題が山積みされており、遺跡の実態にどこまで迫れるか、今後の大きな課題である。


上の原下割遺跡　全景

11. 横町（よこまち）遺跡

所 在 地　東山梨郡春日居町下岩下字横町281－1外
事 業 名　新環状・西関東道路建設
調査期間　1999年7月1日～11月30日
調査面積　5,000m²
担 当 者　長沢宏昌　三森鉄治



横町遺跡　位置図

本遺跡の所在地春日居町下岩下は、甲府盆地の北東部に位置し、西方には岩肌が隆々と露出する標高913mの兜山が聳える。地名の由来もこの山の「岩の下」に立地することに因むとされる。

周辺には中川田遺跡、上町田遺跡、一道遺跡等、平安時代を中心とする遺跡群が濃密に分布している。調査区は、笛吹川の支流である平等川によって形成された自然堤防上、標高約290mに位置する。昨年度の試掘調査の結果、完形に近い平安末期の土師器等が出土したことから、本調査を行うことになった。

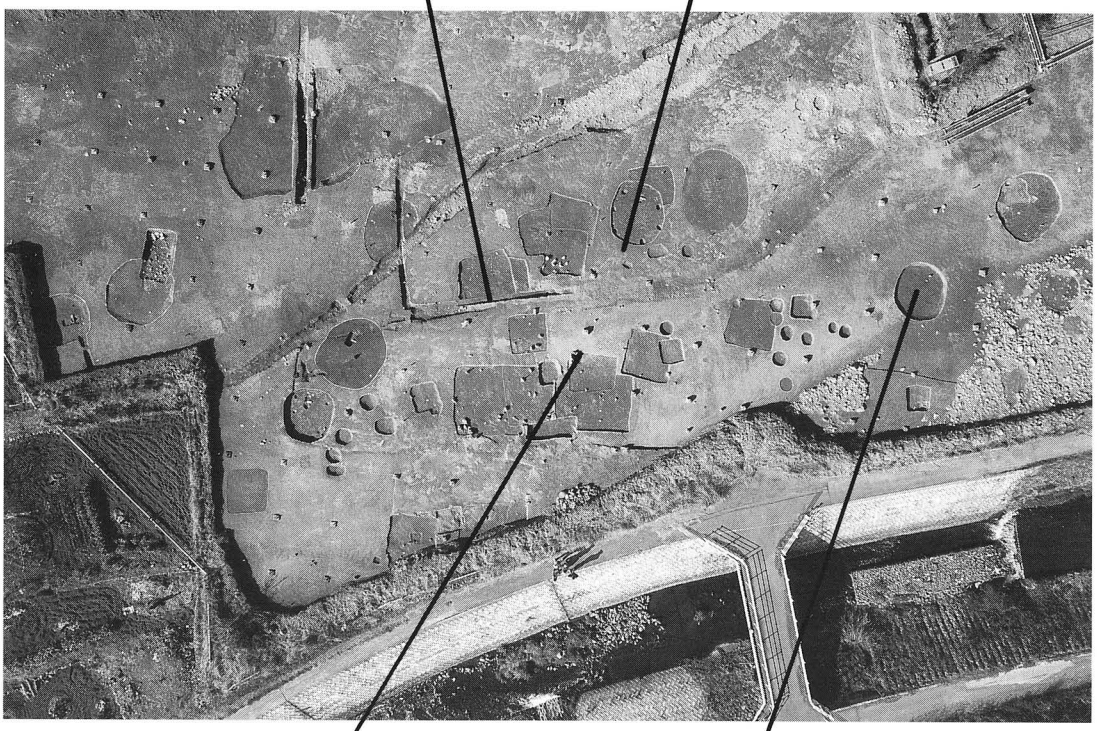
今回の調査は、平等川右岸の畑地5,000m²（幅50m、長さ100m）を対象とした。5ヶ月にわたる調査の結果、弥生時代と平安時代の遺構・遺物が発見された。遺構は、火災住居を含む弥生時代の住居跡12軒、平安時代の住居跡23軒、溝4条の他、土坑が多数検出された。

弥生時代の遺構からは、後期及び終末期の壺・甕等の遺物が出土した。また、住居内から紡錘車が3点出土した。県内では弥生時代住居の発見が比較的少ないが、特に本町内では初めての確認となり、今回発掘された遺物は、当時の生活を探る上で貴重な資料になると考えられる。また、火災住居（18号住居跡）では、焼け落ちた垂木や支柱が床面にへばり付くような状態で出土し、主軸に対して直交する方向に倒れこんでいることが確認された。炭化した木材の残存状態も極めて良好なことから、分析調査の結果新たな事実が判明する可能性もあり、その意味でも貴重な資料と考えられる。さらに、集落が尽きる東端の窪地から、夥しい数の遺物が重なり合うような状況で出土し、投棄された形跡も見られることから、当時の習俗や祭祀との関連を探る上でも重要な発見と言える。

平安時代の遺構からは、末期の坏、皿を中心に土師器・須恵器・灰釉陶器等の遺物が多量に出土し、完形も多い。なかでも注目したいのは、灰釉陶器の多さである。住居内からだけでなく、溝からも頻繁に灰釉陶器が出土し、この時代の遺跡としては稀有な出土数と言える。本遺跡は、甲斐国府が置かれた候補地の1つ、春日居町国府と隣接することから、灰釉陶器の流通経路を探る上でも貴重な資料と考えられる。他にも、緑釉陶器の小片が2点、砥石が数点出土し、住居内一括資料として重要なものである。

灰釉陶器出土状況
（25号住居）

弥生土器出土状況
（15号住居）



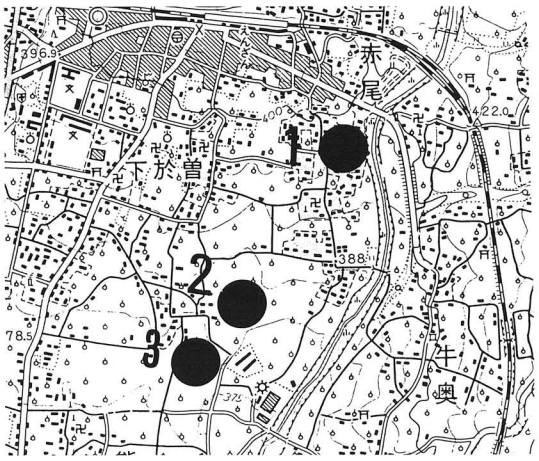
7号住カマド

18号住：火災住居

横町遺跡全景

12. 大木戸（おおきど）遺跡

所 在 地　塩山市下於曽296他
事 業 名　国道411号改築（塩山東バイパス）
調査期間　1999年8月2日～12月3日
調査面積　2,000m²
担 当 者　古屋勝之・小林孝子



1 保坂家屋敷墓 2 影井遺跡 3 大木戸遺跡
塩山東バイパス関係遺跡　位置図

本遺跡は、重川の右岸に連続する小山状の高台の一つに所在する。標高381m前後を測り、南向きの緩斜面に立地する集落跡である。すでに前年度の調査では縄文時代前期の住居跡15軒、平安時代の住居跡2軒を確認している。

発掘調査の結果、縄文時代中期の住居跡1軒、平安時代（10世紀後半～11世紀）の住居跡18軒、平安時代の溝9条、土坑4基、墓坑2基等が確認された。

縄文時代中期の住居跡は、確認面から床面まで50cm前後と深く、住居跡の中央部から壁面側に至るまで全体にわたり幾重にも重複して多量の遺物が出土した。ほとんどは、投げ込まれたり廃棄されたものであった。廃棄された遺物のほとんどは中期藤内式期に位置づけられるものであるが、石囲炉の内面に付設された土器は新道式期のものである。このため本住居跡が新道式期のものであることを知ることができる。またこれらに混ざり、黒曜石やチャート、それに水晶を石材とした石鏃、また磨製石斧・石皿片などの石器も出土している。この住居跡の南に接した土坑からは狢沢式期の大型の深鉢がほぼ完型で出土した。

平安時代の溝は、浅いもので50cm・深いもので1mを越え、底の部分から灰釉陶器片や緑釉陶器をはじめ土師器片も多数発見された。その中でも調査区の中央を北から南へ向かう溝の中からは完全な形の緑釉陶器の段皿が見つかり、その周囲には土師器や灰釉陶器もあり、お祭りなどに使われたと考えられる。完全な形で見つかったのは極めて希で、この器が高級で簡単には手に入らなかったことを物語っている。

平安時代の住居跡は、深さ20cm・一辺が3m程の正方形をし、かまどの位置は北東の隅・ 東側中央・南東の隅と様々であった。このことから住居跡は同時期のものではなく、長い間にわたり集落として生活されていたと考えられる。また、かまどは壊され石を投げ込んだり、土器を投棄してあり、当時の人が移り住んだときにかまどを壊していったものと想像できる。遺物量は少なかったが、灯明皿や甕などが見られた。

人骨は、2カ所の土坑で確認されそれらは50m程離れていた。いずれも北枕・西向きで手足を曲げ、右側を下にして埋葬されていた。頭部は比較的原形をとどめていたが、その他の部分はすでに土にかえりつつあり、骨を確認することが困難な状態であった。1号墓の人骨の発見時には、「おそらく女性で、比較的高齢の方」と判断された。2号墓の人骨は、手のすぐ近くに土師器皿が完全な形で出土し、中世に位置づけられるものである。このように本遺跡は、多時代にわたる遺構が分布し、様々な遺物が出土した。塩山市内では当該期の資料は多いとは言えず、これほどまとまった資料を得ることができたことは非常に重要な成果であり、とても有意義な発掘調査となった。

緑釉陶器・灰釉陶器・土師器

出土遺物実測状況

13. 保坂家屋敷墓（ほさかけ やしきぼ）

調査前状況

所 在 地　塩山市赤尾675外
事 業 名　国道411号改築（塩山東バイパス）
調査期間　1999年4月26日～5月21日
調査面積　100m²
担 当 者　古屋勝之・小林孝子

本遺跡は、重川右岸の標高398 m付近に所在する。すぐ南側には西畑遺跡があり、その南西には下西畑遺跡が立地するなど、本地域は遺跡が密集して所在する地域である。

保坂家屋敷墓は、現在墓地のみが屋敷から分断され東西11m、南北9m程の方形である。24基の石造物が現存し、34人の戒名が見られ内訳は男性が14人、女性が20人である。墓石には1基に2～4名の戒名が見られ、最も古いものは「元和四戌午」（1618年）の銘が確認できる。

保坂家は黒川金山衆に関係する家柄で、屋敷内には土塁も残るなどその規模から金山衆の中では中規模クラスと思われる。墓地は極めて良好な状態で、掘り進めた結果、墓域の北東の隅から高さ5cmほどの白い容器（磁器でふたは茶色のプラスチック）が出土し、中には「人の歯」が複数入っていた。

また確認面より1mほど下から骨壺が出土し、中に「遺髪」が残されていた。骨壺のふたの内側部分には「・・三・・」の墨書が見られ、また骨壺自体は大正期に位置づけられるものである。さらにその50cm程下層からは遺骨が確認され、それについては鑑定の結果、女性で壮年期から熟年期に当たるものと推定される。

東西に2本のトレンチを入れた結果、地表より1m程掘り下げると一抱えもある巨大な石を多数確認し、深く掘ることができなかった。本遺跡は、おそらく「参り墓」で屋敷の近くに墓を設け、いつでもお参りができ、一族の者として手厚く扱われたのではないかと思われる。なお、出土遺物は全て保坂氏へ返却した。

14. 影井遺跡（かげい）

3号住居跡　遺物出土状況

所 在 地　所在地　塩山市赤尾225外
事 業 名　国道411号改築（塩山東バイパス）
調査期間　1999年6月8日～7月１６日
調査面積　1,055m²
担 当 者　古屋勝之・小林孝子

本遺跡は、重川右岸の扇状地上に位置し、標高は385m前後を測る。昨年度の試掘調査から、かつて遺跡の北から南東へ川が流れていたことを知ることができ、本遺跡はそれらより一段高い台地上に所在していたことがわかる。

影井遺跡は、調査区北側は地表から確認面まで20cm程だが、南側は1m以上と深かった。 調査の結果、北側から平安～中世と思われる掘建柱建物跡が4～5棟確認され、その南側からは土坑が7基検出された。どの土坑も幅が1m程で円形をし、深さは50cm前後であった。掘建柱建物跡や土坑からはわずかに土師器片・青磁片等を確認した。

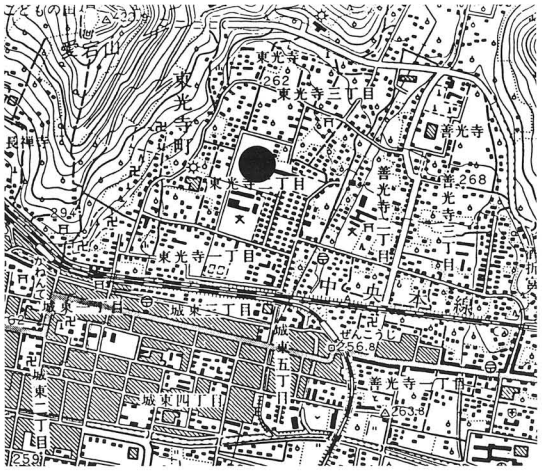
平安時代の住居跡は3軒確認できたが、すべて調査区西側からであった。一部が調査区外になっているため全貌は分からないが、住居跡によりかまどの位置が異なっており、住居内からは平安時代のものと思われる土師器杯や灰釉陶器をはじめ鉢なども出土した。

1号住居跡は石で組んだかまどがあり、東へ2m程度の「煙道」も確認できた。2号住居跡には北東にかまどが付設され、袖石や煙道や枕石も検出された。また住居中央部には粘土を敷いた「はり床」も確認された。3号住居跡からは住居西側中央部にかまどが組まれ、その周辺から完全な形で灰釉陶器や鉢、灯明皿、甕、坏等多くの遺物を検出した。

15. 八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査

15-1. 養護学校建設工事に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市東光寺二丁目 25 － 1
遺 跡 名　銀杏之木遺跡
調査期間　1999 年 5 月 11 日～ 14 日
調査面積　577m² （用地 22,800m² のうち建物建設予定部分 10,925m² を対象とした）
担 当 者　今福利恵・勝俣　透

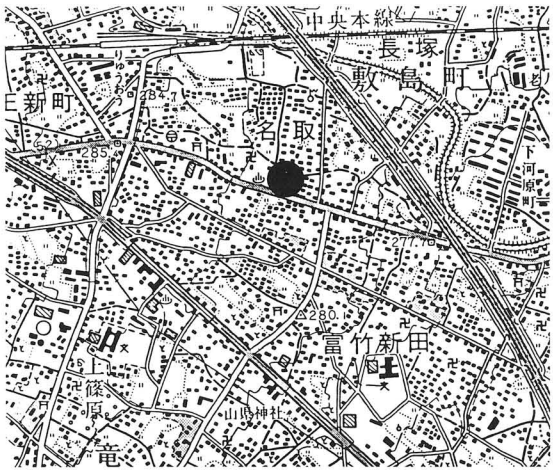


試掘調査　位置図

旧甲府第一商業高校の校庭部分が調査対象となる。重機により、試掘坑を約10m間隔で29箇所掘削し、その後人力で精査した。地表下約 30 ～ 50cm より陶磁器、瓦類、瓶類、缶類、コンクリート基礎等が検出されたが、いずれも昭和期前半（戦前～戦中）のものである。この層より下は茶褐色粘土層、灰色粘土層、青灰色粘土層、シルト層などが続き、最大240cm まで掘り下げたが地盤礫層にあたらず、また遺物も皆無であった。よって調査区内に埋蔵文化財は存在しないものと判断した。

15-2. 竜王社会保険事務所建築工事に伴う試掘

所 在 地　中巨摩郡竜王町名取 347 － 1
遺 跡 名　中河原遺跡
調査期間　1999 年 4 月 26 日
調査面積　65m² （2,008m²）
担 当 者　今福利恵・勝俣　透

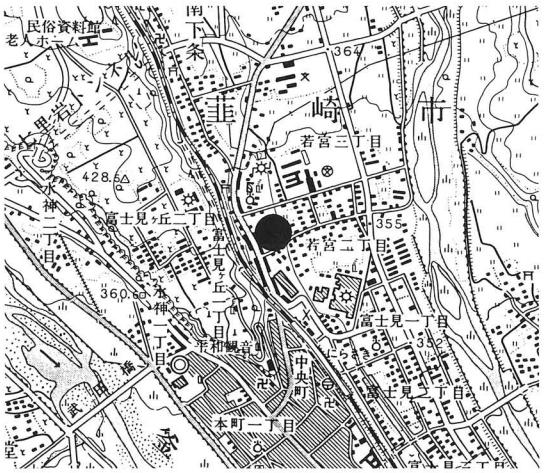


試掘調査　位置図

建物建設予定部分に対して南北に 3 本のトレンチを入れた。現地表下2mまで砂質シルト層で、以下砂傑層となる。調査区北東部分において良好な粘質土層を検出し、拡張してみたが、遺構と判断するには至らなかった。調査区中央部分では攪乱が著しく、地表下2mの砂礫層まで及んでいた。それぞれの調査トレンチ途中において深掘りし、地山層まで確認したが、いずれも遺構・遺物ともに確認できなかった。これらの状況から、少なくとも今回の調査対象域は遺跡とは認められない。

15-3. 旧韮崎保健所解体に伴う試掘調査

所 在 地　韮崎市若宮一丁目 10 － 41
遺 跡 名　若宮一丁目遺跡
調査期間　1999 年 5 月 28 日
調査面積　26m² （1769.7m²）
担 当 者　今福利恵・勝俣　透

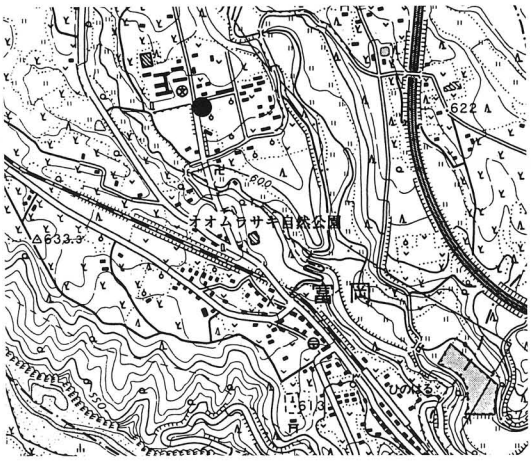


試掘調査　位置図

試掘坑を既存建物施設部分をのぞいたところに4箇所設置し、掘削を行った。地層は、地表には敷地整地土があり、その下には褐色粘質土、暗褐色土が地表下50cm程まで堆積しており、以下は拳大から人頭大の円礫が多くなり、掘削は困難で、また遺物も皆無であった。調査区西側部分では礫層直上の黒褐色土から弥生土器が 2 点検出され、わずかに包含層がみられるが、既存建物や重油槽があり、撹乱が著しいものと思われる。しかし調査区域より西側周辺に弥生時代の集落がある可能性があり、今後の開発には注意を要する。

15-4.　峡北地区総合学科高校整備事業に伴う試掘調査

所 在 地　北巨摩郡長坂町渋沢1007－19外
遺 跡 名　原町農業高校前遺跡
調査期間　1999年8月18日～8月27日
調査面積　659m²（対象面積183,000m²）
担 当 者　村石眞澄・小林　稔

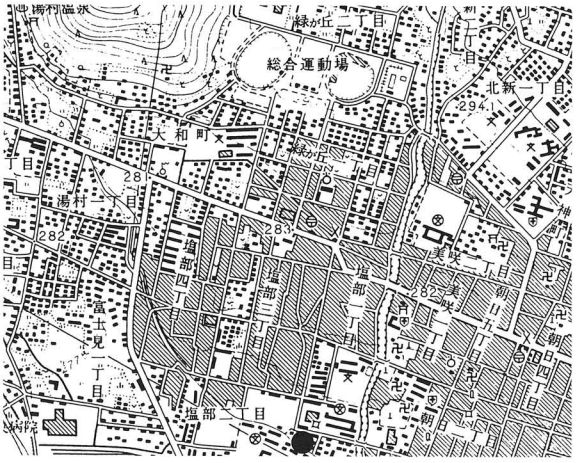


試掘調査　位置図

現在の峡北農業高校の敷地内に総合学科高校を建設するための遺跡確認調査である。校舎建物やそれに伴う配管、作物の栽培地等を避けながら27本のトレンチを掘削し、遺物、遺構の有無を確認した。多くの地点で深くローム層まで削平が及んでおり、遺構の遺存状態はあまり良好ではないが、縄文時代中期中葉とみられる住居跡と埋甕などの土器、石皿及び平安時代の住居跡や溝状遺構が確認された。今回の試掘調査は計画立案のためのものであり、工事計画に応じて当該地点に対して遺構の残存の確認調査や本調査が必要であると考えられる。

15-5.　甲府工業高等学校文化創造館建設に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市塩部1丁目2279番地外
遺 跡 名　塩部遺跡
調査期間　1999年9月29日
調査面積　35m²（700m²）
担 当 者　坂本美夫

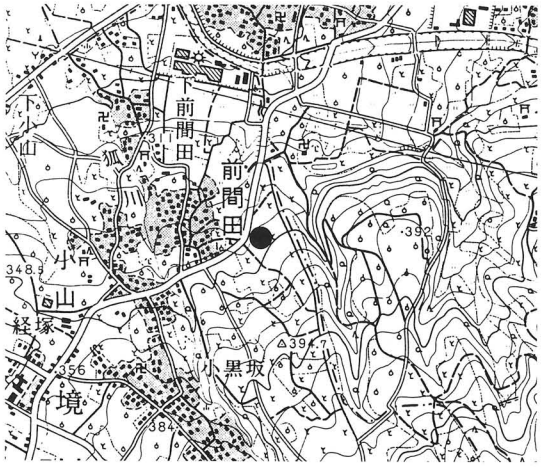


試掘調査　位置図

文化創造館建設用地のうち建物部分において、長さ3～18m、幅1～2mのトレンチを6本設定し、人力にて遺構・遺物の有無の確認調査を行った。調査の結果、以前に建てられていた建築物に伴う痕跡や水田の床土と考えられる平坦面が確認された。しかし、水田は極新しい時期のもので、遺物も全く確認できなかった。よって、調査区内に埋蔵文化財は存在しないと判断し、調査を終了した。

15-6.　リニア実験線変電所建設予定地内道路建設に伴う試掘調査

所 在 地　東八代郡境川村前間田978－1外
遺 跡 名　前間田遺跡
調査期間　1999年11月16日～18日
調査面積　163m²（2,800m²）
担 当 者　坂本美夫・長田雅巳

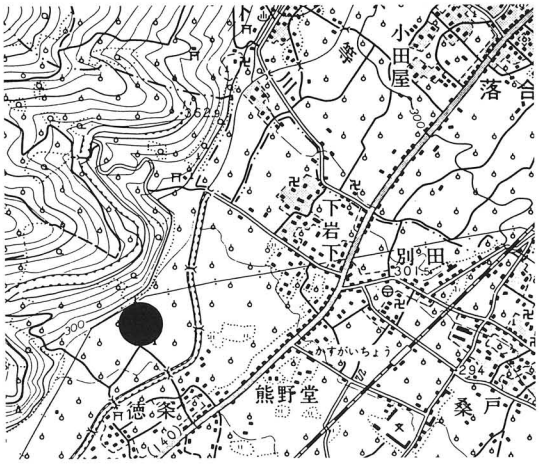


試掘調査　位置図

調査は、人力及び重機により17本のトレンチ掘削を行い、平面・断面観察によって遺構・遺物の有無の確認作業を行った。その結果、遺構の存在は全く確認されなかった。また、遺物においても7号トレンチ第2層から確認された土器片2点のみであった。1点は不明であるが、他の1点は10世紀代のものと考えられる甲斐型坏の口縁部の小片である。いずれの土器も摩滅が著しく流れ込みのものであると思われる。以上のことから、調査区内に埋蔵文化財は存在しないと判断し、調査を終了した。

15-7.　西関東道路建設に伴う試掘調査

所 在 地　東山梨郡春日居町鎮目 1086 外
遺 跡 名　上町田遺跡
調査期間　1999 年 11 月 15 日～ 19 日
調査面積　693m² (5,000m²)
担 当 者　米田明訓・熊谷栄二



試掘調査　位置図

調査は重機と人力により、5 ～ 10m 間隔に幅 1.5m ～ 2m、長さ 11m ～ 110m のトレンチを 14 箇所にわたり設定した。

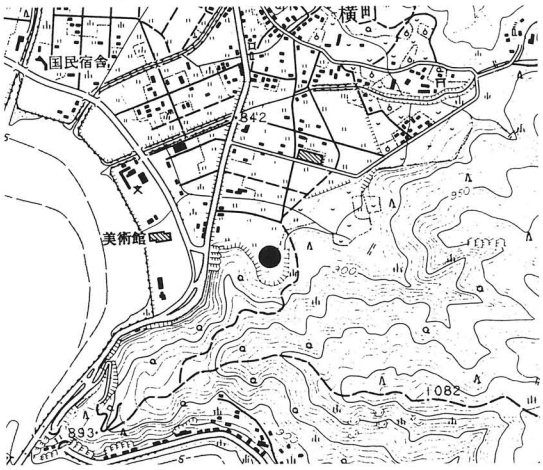
調査区の北東側では、幅が25mほどの泥炭で覆われた東西に走る谷が検出された。深さ2mまで掘り下げたが、自然木や葦などが泥炭の中に含まれ、腐敗臭を発する土壌であり、人工遺物は全く発見されなかった。この谷は東側にそびえる山に見られる谷が、そのまま平地まで下ってきている様子である。

調査区中央では、表面耕作土の直下に良好な砂層の堆積が見られ遺構の存在が期待されたが、若干の縄文～平安時代の摩耗した土器片が出土したのみである。

調査区最も南西の山際には所々に良好な土壌堆積を見ることができ平安時代の土器片も僅かに出土したが、遺構は全く検出されなかった。以上の結果、今回の範囲は“周知”の遺跡内ではあるが、明確な遺構の存在を確認することや、積極的に包含層と呼び得る層位をも確認することはできなかった。

15-8.　河口湖バイパス建設工事に伴う試掘調査

所 在 地　南都留郡河口湖町追坂 644 － 2 外
遺 跡 名　追坂遺跡
調査期間　1999 年 10 月 21 日～ 22 日
調査面積　177m² (2,350m²)
担 当 者　坂本美夫・長田雅巳



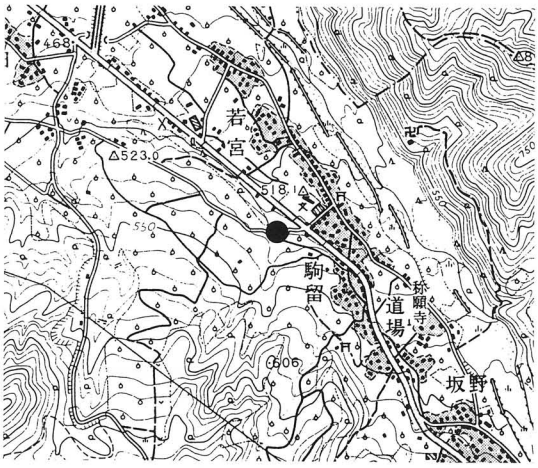
試掘調査　位置図

調査は、重機によって計9本のトレンチ掘削を行い、平面・断面観察によって遺構・遺物の有無の確認調査を行った。その結果、遺構は全く確認されず、また、遺物も第5号トレンチから出土した2点のみであった。1点は甲斐型坏の口縁部の小片であり、内面に暗文の見られる、おおよそ9世紀代のものと考えられる。もう1点は、水抜きと考えられる溝の中から出土した駿東型甕と考えられる口縁部の小片で、やはり9世紀代と考えられるものである。

追坂遺跡は昭和47年度の分布調査で、遺物包含層（縄文中期）の遺跡として登録された。その経過は、36年に水田開墾の土採集の折に打製石斧が単独で出土し、採集されたことによる。しかし、今回の試掘調査では縄文時代の遺物は全く発見されなかった。また、平安時代の遺物である甲斐型坏、駿東型甕などは、水抜き溝と考えられる埋没土中などから小片で発見されたもので、しかも遺構等の確認がないことから遺跡の存在していた可能性はほとんどないものといえる。このため本調査の必要はないものと考えられる。

15-9.　国道137号(上黒駒バイパス)改築に伴う試掘調査

所 在 地　東八代郡御坂町上黒駒字桂野大道上2025外
遺 跡 名　桂野遺跡
調査期間　1999年12月8日～10日
調査面積　236m² (3,000m²)
担 当 者　出月洋文・長田雅巳



試掘調査　位置図

桂野遺跡は、甲府盆地東部に連なる御坂山塊の北西緩斜面の桂野台地上に位置し、標高は530mを測る。調査地点は周知の遺跡範囲の東端部に当たると見込まれていた。

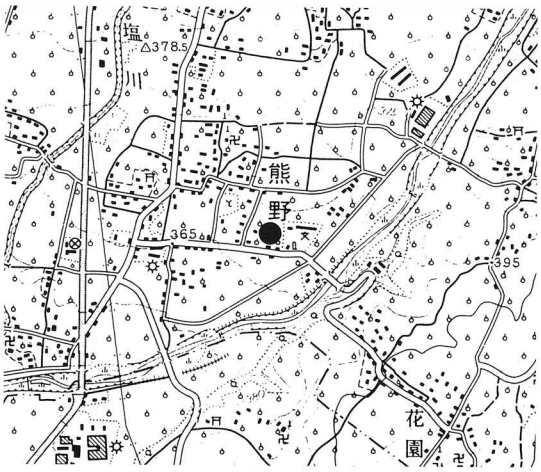
調査方法は、人力及び重機により13本のトレンチ掘削を行い、トレンチ内の平面・断面観察によって遺構・遺物の確認調査を行った。

調査の結果、設置した13本のトレンチの内、8・11号トレンチを除くすべてのトレンチから縄文前期最終末(十三菩提式)や同中期初頭(五領ヶ台式)の土器及び石器を中心とした遺物が確認された。ただし、NO 9から13号トレンチは沢状の地形に位置し、外からの流れ込み等によるものと考えられる状況にあった。また、NO 2・4・5・6号トレンチからは中期初頭(五領ヶ台式)の住居跡や同期の土坑などの遺構の存在も確認された。

以上のことから主に遺構の存在が明確で、遺物がまとまって出土したNO 2～7号トレンチの位置する部分は桂野遺跡の東端部に相当することが明らかになった。よってこの地点については、工事が行われる前に本調査の必要があると思われる。

15-10.　国道411号(塩山東バイパス)改築に伴う試掘調査

所 在 地　塩山市熊野字八反田966－3外
遺 跡 名　五反田遺跡
調査期間　1999年12月16日～17日
調査面積　123m² (3,200m²)
担 当 者　坂本美夫・長田雅巳



試掘調査　位置図

甲府盆地東部に連なる大菩薩嶺は、幾筋もの川となり盆地へと流れ込み、周辺各地の貴重な水源になっている。その川の一つである重川はこの大菩薩嶺から南流し、扇状地を形成しながらやがて笛吹川へ合流する。この南流する重川右岸沿いには下西畑・影井・大木戸遺跡など多数の遺跡が存在し、本遺跡もその中の一つであると考えられていた。

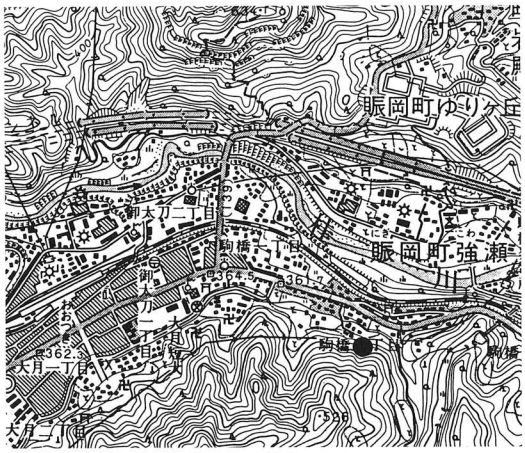
調査方法は、人力及び重機によって10本のトレンチ掘削を行い、トレンチ内の平面・断面観察によって遺構・遺物の有無の確認調査を行った。

調査の結果、設置した10本のトレンチの内、1号・4号トレンチを除くすべてのトレンチから縄文・古墳(S字口縁甕等)・平安時代(甲斐型坏等)などの土器片が確認された。しかし、いずれも1cm大ほどの小片であり、摩滅も激しいことから流れ込み等の影響によるものと考えられる。しかし、遺構の存在については、重川の氾濫により当時の地山が流されているためか、検出する事はできなかった。

以上のことから、本調査区においては工事が行われる前の本調査の必要はないと考える。

15-11.　国道20号(大月バイパス)改築に伴う試掘調査

所 在 地　大月市大月町駒橋1640外
遺 跡 名　延命寺遺跡
調査期間　1999年6月28日～7月1日
調査面積　155m²（2,000m²）
担 当 者　村石眞澄・小林　稔

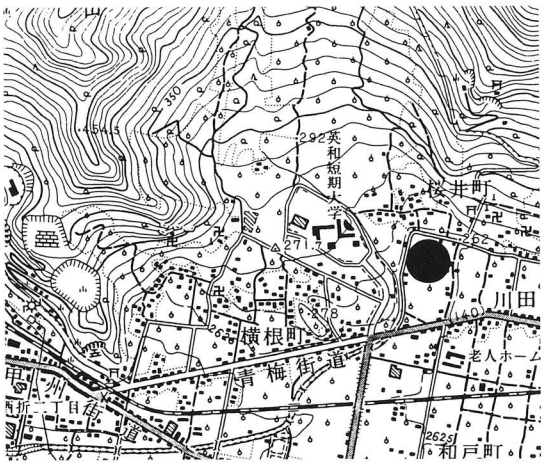


試掘調査　位置図

調査対象範囲のうち、転居前の住宅が残っている部分を除いた地域に9本のトレンチを掘削し、遺跡の確認調査を行った。現在の耕作土の下からは、削平による平坦化や、調査区の東を流れる延命沢に関わる土石流の痕跡が各所に認められ、調査区全域において包含層とみられる堆積層は確認されなかった。遺物についても近代～近世末の磁器片以外は認められず、当該工事予定区域については本調査の必要はないものと判断される。

15-12.　新環状道路建設に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市桜井町上十石691外
遺 跡 名　上十石遺跡
調査期間　1999年11月24日～同年11月30日
調査面積　672m²（5,000m²）
担 当 者　米田明訓・熊谷栄二



試掘調査　位置図

調査は重機と人力により、2～10m間隔に幅1.3m～2.4m、長さ6m～67mのトレンチを11箇所にわたり設定した。

調査対象地域中、最も北側で山寄りでは、中世～近世の時代のものと思われる土器片が僅かに確認できた。しかし耕作土の直下で粘質土が現れ、以下は自然木や葦などが泥炭の中に含まれ、腐敗臭を発する土壌のみが続く状況であった。耕作土の下に良好な茶褐色土層が確認できた場所も僅かに存在するものの、その層も極めて薄い堆積であり遺構は全く確認できなかった。

以上の結果、遺構そして遺物包含層さえも全く確認されず、試掘調査した範囲に限って言えば、明確に遺跡と呼び得る根拠は存在しなかった。

Ⅲ　県内の概況

1. 発掘調査

1999年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて200件となっている。県が24件、市町村が176件である。調査を原因別に見ると、道路関係57件、住宅56件、電気2、店舗1、場外車券場1、工場1、個人住宅4、その他建物23件、その他開発15件、宅地造成17件、農業関連12件、学校4件、公園造成2件、自然崩壊1件といった緊急調査が167件と、学術調査5件、遺跡整備4件となっている。

2. 発掘調査の成果

縄文時代では、明野村寺前遺跡から中期後半の環状集落が検出され、さらに中世として12世紀後半の青白磁の梅瓶をはじめとする陶磁器類が多数出土している。韮崎市石之坪遺跡や御坂町桂野遺跡からは、縄文中期の特徴的な土偶が発見されているが、桂野遺跡の中期前葉の河童型土偶は完形になるものが得られた。櫛形町北原C遺跡からは水煙把手付土器などがほぼ完形で出土している。弥生時代では、白根町の横堀遺跡から条痕文が施された土器が出土し、甲府盆地西部における貴重な資料をもたらした。また春日居町の横町遺跡では、後期の住居跡が12軒発見された。古墳時代では、明野村大日川原遺跡から方形周溝基が12基検出されている。上野原町西ノ畑古墳は胴張り型の石室をもった7世紀の所産で、県東部ではほとんど例のない新発見の古墳である。平安時代では、白根町百々遺跡から平安時代の集落が発見されているが、200軒ほどの住居跡の確認は古代の郷の存在をうかがわせるものとなっている。なお4体の馬の埋葬例に代表されるが、牛馬の頭骨が多数出土し注目されている。また八田村の立石下遺跡からは、住居跡から奈良三彩の小壷片が検出されている。長坂町石原田遺跡では壁外住穴をもつ平安の竪穴住居跡が確認されている。長坂町紺屋遺跡では、10世紀代の小鍛冶遺構が発見され、20点ほどの鉄滓や金床石、製作途中の刀子などが出土している。また14～15世紀代と考えられる方形竪穴状遺構が7棟見つかっている。中世から近世では一宮町北中原遺跡から13～14世紀の鍋などの鋳型が出土し、国分寺を取り巻く生産集団の一つと考えられる鋳物師の存在が明らかとなった。長坂町紺屋遺跡では、14～15世紀代と考えられる方形竪穴状遺構が7棟のほか、10世紀代の小鍛冶遺構が発見され、20点ほどの鉄滓や金床石、製作途中の刀子などが出土している。

3. 埋蔵文化財の保存と活用

遺跡の保存整備では、甲府市武田氏館跡、勝沼町勝沼氏館跡、韮崎市新府城跡、大泉村谷戸城跡、甲府市甲府城跡などの城館跡の整備事業に伴う調査が実施されている。県指定史跡の甲府城では、「稲荷櫓」復元工法をめぐり協議検討が繰り返されてきたが、在来工法で建物の復元を行う方向で一致した。

史跡・考古資料の指定については、境川村一の沢遺跡の出土品（土器・土製品・石製品など176点）が国重要文化財に指定された。また、富沢町の真篠城跡については、県指定史跡として指定を受けた。

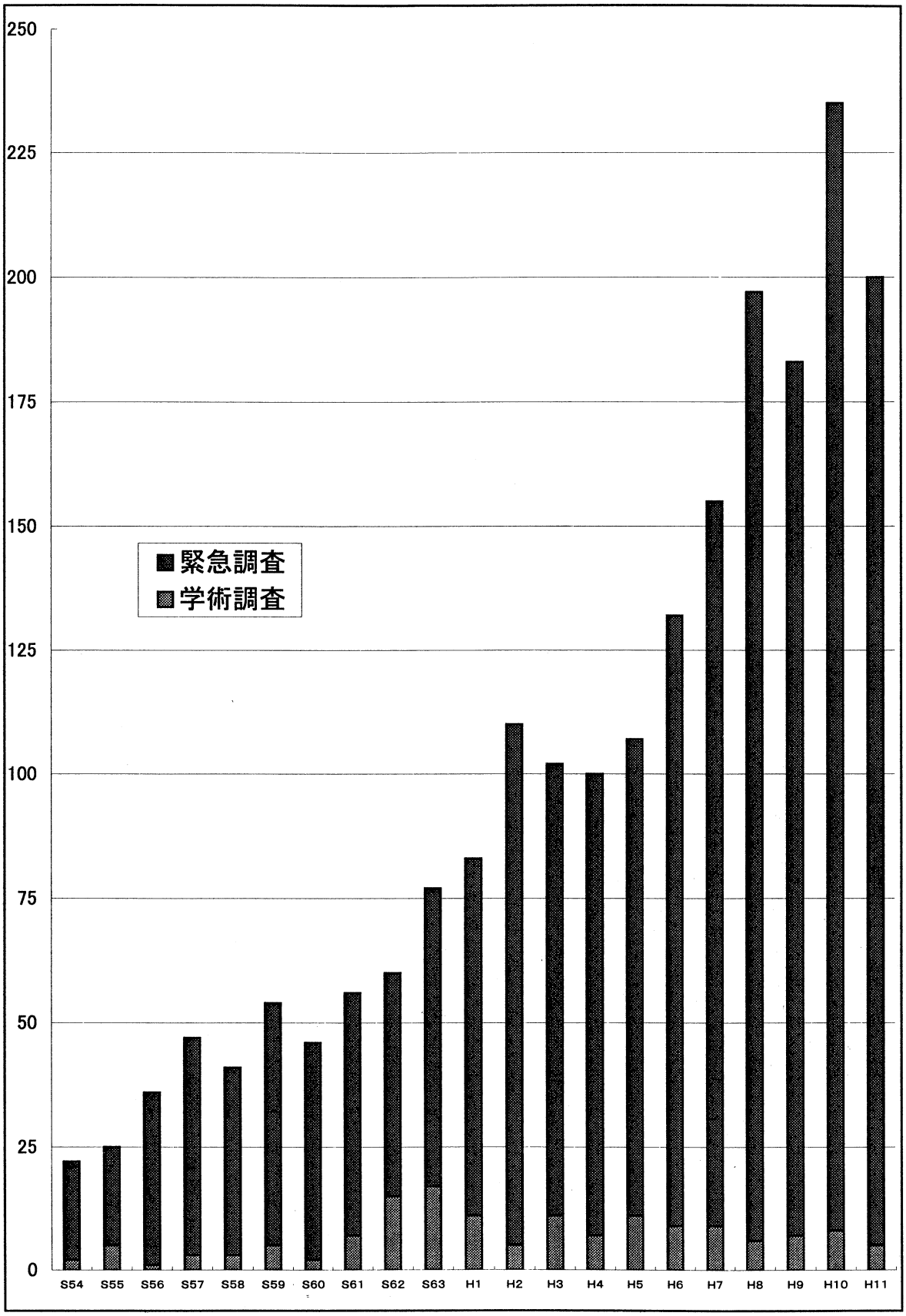
展示会では、県立考古博物館で、企画展「物流の考古学」、特別展「縄文の旅―三内丸山から北陸、そして山梨―」、重要文化財指定記念として「一の沢遺跡展」を開催した。また、当センター主催で平成10年度の発掘調査成果の「山梨の遺跡展」を県立考古博物館、富士吉田市、組合立釈迦堂遺跡博物館、境川村、丹波山村で巡回展示を実施した。春日居町郷土館では企画展「春日居の世界展―尾張・甲斐を中心として」を、下部町金山資料館では企画展「道具から見た金山衆の世界」を開催した。

4. 調査体制

埋蔵文化財専門職員（埋蔵文化財担当および担当可能職員）について、県が学術文化財課4名（うち博物館関係1名）、埋蔵文化財センター34名（他に非常勤嘱託1名）、考古博物館2名（他に非常勤嘱託1名）、市町村では、甲府市7名（他に非常勤嘱託2名）、御坂町3名、韮崎市2名、長坂町2名、一宮町2名、都留市、塩山市、山梨市、春日居市（郷土館兼務）、勝沼町、牧丘町、石和町、中道町、境川村、豊富村、八代町、三珠町、増穂町、櫛形町、甲西町、白根町、敷島町、竜王町、双葉町、昭和町（若草町と共同設置）、大泉村（他に非常勤嘱託1名）、須玉町（他に非常勤嘱託1名）、明野村（他に非常勤嘱託1名）、高根町、武川村（他に非常勤嘱託1名）、白州町、小淵沢町、上野原町、八田村（非常勤嘱託）に各1名、また大月市の郷土博物館に2名、富士吉田市の歴史民俗資料館などに2名の合計49名（非常勤嘱託を含む）となっており、64市町村のうち56%にあたる36市町村に配置されている。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移

（単位：件）



年度	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
学術調査	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5
緊急調査	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195
合計	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200

1999年度発掘調査一覧表

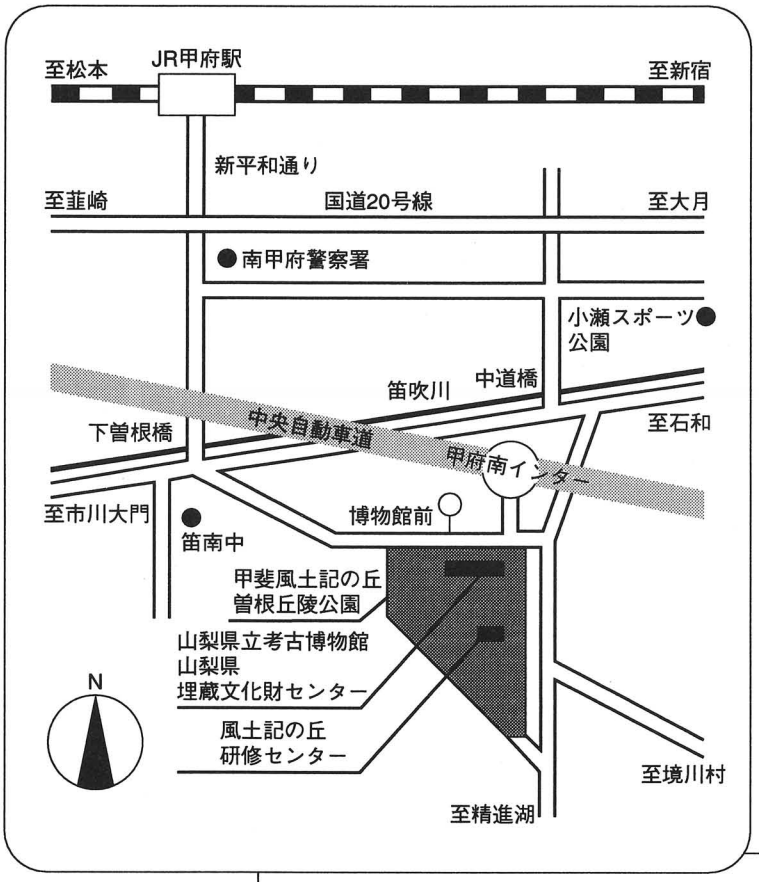
No.	遺跡名	所在地	面積(m²)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間		
1	上小用遺跡	北巨摩郡白州町鳥原529ほか	10,000.00	集落跡	縄・平・中	農業関連	白州町教育委員会	H11.4.5	～	H12.3.31
2	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2149ほか	2,149.00	集落跡	旧・縄・古・平・中	道路	八代町教育委員会	H11.4.6	～	H12.4.1
3	石原田北遺跡	北巨摩郡長坂町大八田166ほか	9,000.00	集落跡	縄・平・中	その他建物（店舗）	石原田遺跡調査団	H11.4.1	～	H11.6.30
4	曽根遺跡	中巨摩郡櫛形町上宮地字曽根924-2	471.78	集落跡	縄・弥・古	その他建物（車庫）	櫛形町教育委員会	H11.4.12	～	H11.4.13
5	北原遺跡	北巨摩郡白州町白須5714	100.00	集落跡	縄・平・中	農業関連	白州町教育委員会	H11.4.12	～	H11.5.14
6	中小河原堤防遺跡	甲府市中小河原町1609-2他	11,764.10	その他遺跡（堤防）	近	宅地造成	甲府市教育委員会	H11.4.14	～	H11.4.30
7	大覚林遺跡	東八代郡八代町岡2005	612.00	散布地	縄・中	道路	八代町教育委員会	H11.4.16	～	H11.4.20
8	谷戸城跡	北巨摩郡大泉村谷戸2434-2	470.00	城館跡	中	学術研究	大泉村教育委員会	H11.4.1	～	H11.4.30
9	下木戸第２遺跡	韮崎市中田町中条下木戸1051	25.00	集落跡	古墳	住宅	韮崎市教育委員会	H11.4.12	～	H11.9.30
10	筑前原遺跡	東八代郡一宮町東原字筑前430-3ほか	1,407.00	集落跡	弥?中	住宅	一宮町教育委員会	H11.4.19	～	H11.6.30
11	二子塚古墳	東八代郡八代町南550-1	15.00	散布地	縄・古?中	その他開発（駐車場）	八代町教育委員会	H11.4.22	～	H11.4.26
12	北原Ｃ・Ｄ遺跡	中巨摩郡櫛形町	3,200.00	散布地	縄文	道路	櫛形町教育委員会	H11.4.19	～	H11.5.14
13	金山遺跡	東八代郡境川村小黒坂1897-1	12.00	集落跡	縄?古	住宅	境川村教育委員会	H11.4.28	～	H11.4.28
14	塩部遺跡	甲府市飯田一丁目2356-1ほか26筆	3,363.80	集落跡	縄?中	その他建物（ビル）	甲府市教育委員会	H11.4.7	～	H11.4.23
15	小屋敷遺跡	北巨摩郡長坂町大八田3879-1.3880-4	1,200.00	集落跡	縄・平・中	宅地造成	小屋敷遺跡調査団	H11.4.27	～	H11.6.30
16	道々芽木遺跡	甲府市横根町875ほか	800.00	散布地	平	道路	山梨県教育委員会	H11.4.28	～	H11.6.30
17	銀杏之木遺跡	甲府市東光寺2-25-1	10,925.00	散布地	中・近	学校	山梨県教育委員会	H11.5.11	～	H11.5.21
18	日向町遺跡	甲府市北口二丁目14	480.00	集落跡	古・近	その他建物（車庫）	山梨県教育委員会	H11.4.16	～	H11.5.31
19	上の原下割遺跡	東八代郡御坂町上黒駒字上の原下割4489ほか	3,000.00	集落跡	縄・弥・中	道路	山梨県教育委員会	H11.5.10	～	H11.8.31
20	中河原遺跡	中巨摩郡竜王町名取字中河原247-1	2,008.00	散布地	中・近	その他建物（公官庁舎）	山梨県教育委員会	H11.4.26	～	H11.4.26
21	立石下遺跡	中巨摩郡八田村野牛島字立石下2586-1ほか	14,100.00	集落跡	弥・平安	道路	山梨県教育委員会	H11.4.28	～	H11.11.30
21	東原遺跡	山梨市後屋字東原420.416.417.418-1	900.00	散布地	縄・平・中	道路	山梨市遺跡調査会	H11.5.1	～	H11.6.30
22	西ノ原古墳	北都留郡上野原町大野5372	8.00	古墳	古	遺跡整備	上野原町教育委員会	H11.4.26	～	H11.5.7
23	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目地内	2,000.00	城館跡	近	遺跡整備	山梨県教育委員会	H11.5.6	～	H12.3.31
24	天神前東遺跡	山梨市大野字天神前79-1ほか	20.00	散布地	平	工場	山梨市教育委員会	H11.4.27	～	H11.4.28
25	笹見原遺跡	南都留郡忍野村忍草字笹見原1919-2	855.60	散布地	縄	道路	忍野村教育委員会	H11.5.6	～	H12.3.31
26	宮原遺跡	中巨摩郡櫛形町桃園字宮原650	1,600.00	散布地	弥・平	道路	櫛形町教育委員会	H11.5.10	～	H11.5.14
27	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂543-2	4.00	集落跡	縄・古	住宅	境川村教育委員会	H11.5.10	～	H11.5.10
28	百々遺跡	中巨摩郡白根町百々	24,300.00	集落跡	弥・平	道路	山梨県教育委員会	H11.5.6	～	H11.12.20
29	仲田遺跡	中巨摩郡八田村野牛島地内	7,300.00	水田跡	中	道路	山梨県教育委員会	H11.5.6	～	H11.9.30
30	緑が丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘一丁目74-6	191.83	散布地	縄・平	住宅	甲府市教育委員会	H11.5.10	～	H11.5.11
31	本郷遺跡	甲府市善光寺三丁目2445-11	141.28	集落跡	縄・平・中	住宅	甲府市教育委員会	H11.5.7	～	H11.5.7
32	越中久保遺跡	北巨摩郡長坂町中丸4200ほか	7,548.00	散布地	縄	農業関連	長坂町教育委員会	H11.4.20	～	H12.3.30
33	菅間遺跡	北巨摩郡長坂町小荒間字菅間1320-177.33	2,778.00	散布地	縄	宅地造成	長坂町教育委員会	H11.5.11	～	H11.5.14
34	横堀遺跡	中巨摩郡白根町在家塚横堀1538ほか	1,000.00	散布地	弥	道路	山梨県教育委員会	H11.4.26	～	H11.6.30
35	緑が丘二丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目397-4	132.66	古墳	古・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	H11.5.13	～	H11.5.17
36	保坂家屋敷墓遺跡	塩山市赤尾675	100.00	その他（墓地）	近	道路	山梨県教育委員会	H11.4.26	～	H11.12.24
37	岡遺跡	東八代郡八代町岡1339ほか	52.50	散布地	弥	道路	八代町教育委員会	H11.5.12	～	H11.5.28
38	立石北遺跡	東八代郡境川村小黒坂651	10.00	散布地	縄・古・平	住宅	境川村教育委員会	H11.5.25	～	H11.5.25
39	東久保遺跡	北巨摩郡高根町蔵原字東久保830	7,200.00	集落跡	縄・平	道路	高根町教育委員会	H11.5.12	～	H12.3.31
40	石之坪遺跡	韮崎市円野町上円井1543ほか	1,300.00	集落跡	縄・古・平・中	農業関連	韮崎市教育委員会	H11.4.23	～	H12.3.31

No.	遺跡名	所在地	面積(m²)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間		
41	馬込遺跡	東八代郡一宮町中尾1646-4	183.00	集落跡	古?中	住宅	一宮町教育委員会	H11.5.21	～	H11.7.31
42	川田館跡	甲府市川田町字北村373-2.375	1,179.79	城館跡	古?近	住宅	甲府市教育委員会	H11.5.25	～	H11.5.28
43	榎田遺跡	甲府市千塚五丁目2918-9	236.24	散布地	弥?平	住宅	甲府市教育委員会	H11.5.28	～	H11.6.15
44	久保之沢遺跡	甲府市下帯那町字久保之沢223-1ほか	423.00	散布地	中・近	道路	甲府市教育委員会	H11.5.6	～	H11.6.15
45	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂514-1.515-1	72.00	集落跡	縄・古・平・中	住宅	境川村教育委員会	H11.6.2	～	H11.6.2
46	天神遺跡	東八代郡境川村寺尾4039	17.00	集落跡	縄・弥・平	住宅	境川村教育委員会	H11.6.2	～	H11.6.2
47	若宮一丁目遺跡	韮崎市若宮一丁目10-41	1,769.70	散布地	平・中	その他建物（官庁）	山梨県教育委員会	H11.5.28	～	H11.5.28
48	大塚遺跡	中巨摩郡八田村野牛島3034ほか	3,900.00	集落跡	古・平・中	道路	八田村教育委員会	H11.5.10	～	H11.10.31
49	紺屋遺跡	北巨摩郡長坂町長坂下条字紺屋1485-1ほか	2,000.00	散布地	平・中	道路	紺屋遺跡発掘調査団	H11.6.1	～	H11.11.30
51	朝気遺跡	甲府市朝気３丁目11-24	246.28	集落跡	縄?近	住宅	甲府市教育委員会	H11.6.1	～	H11.6.1
52	城山上北遺跡	北巨摩郡長坂町中丸字堂久保1712-2	297.90	散布地	縄・平	住宅	長坂町教育委員会	H11.6.8	～	H11.6.12
53	上ノ東遺跡	中巨摩郡甲西町塚原字上ノ東1038-1	487.96	散布地	縄?古	その他開発（NTT鉄塔）	甲西町教育委員会	H11.6.10	～	H11.7.16
54	影井遺跡	塩山市赤尾225	1,055.00	集落跡	中	道路	山梨県教育委員会	H11.6.8	～	H11.12.24
55	西原Ｂ遺跡	北巨摩郡武川村牧原地内	80.00	散布地	中・近	道路	武川村教育委員会	H11.6.8	～	H11.6.30
56	堂佛寺遺跡	北巨摩郡武川村牧原1322ほか17筆	80.00	散布地	中・近	住宅	武川村教育委員会	H11.4.15	～	H11.5.28
57	真原Ｃ遺跡	北巨摩郡武川村山高字真原3567-586	10.00	散布地	縄・平	住宅	武川村教育委員会	H11.6.2	～	H11.6.30
58	藤塚遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原字藤塚1077-7	651.00	散布地	近世	その他建物	櫛形町教育委員会	H11.6.1	～	H11.6.1
59	大草Ｂ遺跡	中巨摩郡櫛形町吉田字大草1361-1	384.95	散布地	縄・奈・平	住宅	櫛形町教育委員会	H11.6.16	～	H11.6.16
60	後畑遺跡	東八代郡御坂町二之宮2517-5	91.09	散布地	古・奈・平	住宅	御坂町教育委員会	H11.6.17	～	H11.6.21
61	延命寺遺跡	大月市大月町駒橋1640ほか	2,000.00	散布地	縄・平	道路	山梨県教育委員会	H11.6.28	～	H11.7.9
62	女夫石遺跡	韮崎市穂坂町宮久保字女夫石5036-15ほか11筆	14,000.00	散布地	縄・平	場外車券場	韮崎市教育委員会	H11.6.16	～	H11.6.16
63	寺所第２遺跡	北巨摩郡大泉村西井出寺所207-1	241.00	散布地	縄・平	宅地造成	大泉村教育委員会	H11.6.14	～	H11.6.18
64	大木戸遺跡	塩山市下於曽296ほか	4,845.00	集落跡	縄・平	道路	山梨県教育委員会	H11.6.21	～	H11.12.24
65	甲府城関係遺跡	甲府市北口二丁目13	263.03	城館跡	古・中・近	住宅	甲府市教育委員会	H11.6.10	～	H11.6.18
66	柳原遺跡	東八代郡境川村小山80-1	60.00	集落跡	縄?古	道路	境川村教育委員会	H11.6.28	～	H11.7.9
67	根本山遺跡	北都留郡上野原町上野原1391ほか	240.00	散布地	縄	道路	上野原町教育委員会	H11.6.29	～	H11.7.2
68	天神西遺跡	甲府市千塚４丁目11-34	203.71	散布地	古墳	住宅	甲府市教育委員会	H11.6.24	～	H11.8.10
69	北原Ｃ・Ｄ遺跡	中巨摩郡櫛形町曲輪田字北原1234	2,000.00	集落跡	縄・奈・平	道路	櫛形町教育委員会	H11.7.1	～	H11.10.31
70	横町遺跡	東山梨郡春日居町下岩下字横町281-1ほか	4,000.00	集落跡	平	道路	山梨県教育委員会	H11.7.1	～	H12.3.31
71	朝気遺跡	甲府市朝気一丁目27-3	85,000.00	散布地	弥?平	住宅	甲府市教育委員会	H11.7.5	～	H11.7.16
72	新府城跡	韮崎市仲田町中条上野字城山4787番地他	500.00	城館跡	中	遺跡整備	韮崎市教育委員会	H11.6.1	～	H12.3.31
73	桂野遺跡	東八代郡御坂町上黒駒字桂野大道上2007	7,000.00	集落跡	縄	道路	御坂町教育委員会	H11.7.5	～	H12.3.31
74	西原遺跡（第３次）	東八代郡境川村小山443ほか	200.00	集落跡	縄?古	道路	境川村教育委員会	H11.7.15	～	H11.8.6
75	中込遺跡	北巨摩郡長坂町大井ケ森字中込1110-5	419.83	散布地	縄・弥	住宅	長坂町教育委員会	H11.7.8	～	H11.7.8
76	中込遺跡	北巨摩郡長坂町大井ケ森字中込1110-6	395.11	散布地	縄・弥	住宅	長坂町教育委員会	H11.7.8	～	H11.7.8
77	米倉・向田遺跡	東八代郡八代町米倉1110	30.00	散布地	古・平・中	道路	八代町教育委員会	H11.6.24	～	H11.6.30
78	菅間遺跡	北巨摩郡長坂町小荒間字菅間1266-3他	2,753.69	散布地	縄	宅地造成	長坂町教育委員会	H11.7.21	～	H11.7.31
79	山風呂遺跡	北都留郡上野原町上野原5354-1ほか	27.00	散布地	縄	宅地造成	上野原町教育委員会	H11.7.28	～	H11.7.28
80	甲ッ原遺跡第14地点	北巨摩郡大泉村西井出字和田9167-45	151.00	集落跡	縄	住宅	大泉村教育委員会	H11.7.28	～	H11.7.30
81	甲府城関係遺跡	甲府市北口二丁目1-8.1-9ほか	4,651.86	城館跡	近	その他建物（店舗）	甲府市教育委員会	H11.2.1	～	H11.8.31
82	甲府城下町遺跡	甲府市北口三丁目1-1-1-12	107.00	その他（城下町）	近	電気	甲府市教育委員会	H11.7.1	～	H11.7.31
83	御崎蔵入遺跡	中巨摩郡若草町鏡中条1541	7,661.00	集落跡	平	道路	若草町教育委員会	H11.8.9	～	H11.10.31
84	唐松遺跡	北巨摩郡双葉町宇津谷5481	213.68	散布地	縄	住宅	双葉町教育委員会	H11.8.9	～	H11.8.9

No.	遺跡名	所在地	面積(m²)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間		
85	原町農業高校前遺跡	北巨摩郡長坂町渋沢1007-19	182.53	集落跡	縄	学校	山梨県教育委員会	H11. 8 .18	～	H11. 8 .27
86	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目624.623	160.83	その他（城下町）	近	住宅	甲府市教育委員会	H11. 8 .26	～	H11. 8 .28
87	中世城下町遺跡	甲府市古府中町3006	266.02	その他（城下町）	中	住宅	甲府市教育委員会	H11. 8 .25	～	H11. 8 .25
88	横針遺跡	北巨摩郡長坂町白井沢1443, 1870-3, 1870-4	7,242.00	散布地	弥・古・中	宅地造成	長坂町教育委員会	H11. 8 .26	～	H11. 9 .11
89	武田中世城下町遺跡	甲府市屋形二丁目2425	2,234.74	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11. 8 .20	～	H11. 9 .15
90	並木上第２遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸字並木上8974-650	25.00	集落跡	縄	宅地造成	大泉村教育委員会	H11. 8 .30	～	H11. 8 .30
91	寺所第２遺跡	北巨摩郡大泉村西井出2877-2	77.00	集落跡	縄	住宅	大泉村教育委員会	H11. 8 .17	～	H11. 8 .23
92	豊気遺跡	東八代郡八代町永井字雨降1325-1	71.50	散布地	縄・古～中	住宅	八代町教育委員会	H11. 8 .27	～	H11.11.27
93	並木上第２遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸字並木上8974-650	2.84	散布地	縄	宅地造成	大泉村教育委員会	H11. 8 .28	～	H11.11.28
94	外河原ザクヤ遺跡	甲府市蓬沢庄の木995-3, 996-1	230.00	散布地	縄～平	その他開発(鉄塔建て替え)	甲府市教育委員会	H11. 8 .31	～	H11. 9 . 1
95	甲府城下町遺跡	甲府市中央２丁目373-4, 377-1, 377-2	759.35	その他の遺跡(城下町)	近	住宅	甲府市教育委員会	H11. 9 . 6	～	H11. 9 . 6
96	花鳥山遺跡	東八代郡八代町竹居2982	22.50	散布地	縄	その他の開発(通信鉄塔)	八代町教育委員会	H11. 9 . 8	～	H11. 9 .14
97	遺跡	東八代郡八代町増利462-1	45.00	その他の遺跡(条里)	奈・平	宅地造成	八代町教育委員会	H11. 9 .13	～	H11. 9 .14
98	和戸町遺跡	甲府市和戸町976ほか	8,000.00	散布地	古・奈・平	その他の開発(住宅展示場)	甲府市教育委員会	H11. 8 .26	～	H11. 9 .30
99	裏町遺跡	東山梨郡春日居町加茂159-2	280.00	集落跡	古・奈・平	その他の建物（店舗）	春日居町教育委員会	H11. 9 .16	～	H11. 9 .30
100	甲府城関係遺跡	甲府市宝1-114	30.00	城館跡	近	その他の建物（病院）	甲府市教育委員会	H11. 4 . 5	～	H11. 4 . 8
101	塩部遺跡	甲府市塩部一丁目2279	700.00	集落跡	古～平	学校	山梨県教育委員会	H11. 9 .29	～	H11. 9 .30
102	塩部遺跡	甲府市飯田1-1228, 2400-1	60.00	集落跡	古～平	その他建物（倉庫）	甲府市教育委員会	H11. 9 . 9	～	H11. 9 .21
103	峰本Ｂ遺跡	甲府市屋形3-5-30	12.00	散布地	縄	住宅（共同住宅）	甲府市教育委員会	H11. 9 . 2	～	H11. 9 . 6
104	甲府城下町遺跡	甲府市北口2-42	20.00	城館跡	近	住宅	甲府市教育委員会	H11. 8 . 1	～	H11. 8 .10
105	緑が丘二丁目遺跡	甲府市緑が丘2-786	70.00	集落跡	古～平	学校	甲府市教育委員会	H11. 5 .26	～	H11. 7 . 2
106	本郷遺跡	甲府市善光寺3-2445-69ほか	4.00	散布地	縄・中・近	住宅	甲府市教育委員会	H11. 8 .30	～	H11. 8 .31
107	新居田Ａ遺跡	中巨摩郡櫛形町平岡字新居田1168-1、字長田1765-1	5,811.00	散布地	縄・弥・平～近	道路	櫛形町教育委員会	H11.10. 8	～	H11.10. 9
108	武田城下町遺跡	甲府市屋形２丁目2289-1ほか	100.00	その他の遺跡(城下町)		宅地造成	甲府市教育委員会	H11.10. 4	～	H11.10.15
109	亀田・窪田・桜井畑遺跡	甲府市川田町字亀田・字窪田・和戸町字桜井畑地内	68,851.00	散布地	弥～中	その他開発（グランド）	甲府市教育委員会	H11. 4 . 1	～	H11.10.31
110	四反田遺跡	東八代郡八代町高家1672-1ほか	2,370.00	散布地	奈・平	道路	八代町教育委員会	H11. 9 .27	～	H11.12.17
111	宮地第２遺跡	北巨摩郡大泉村西井出1800-1	20.00	散布地		道路	大泉村教育委員会	H11. 9 .28	～	H11.10. 1
112	石原田北遺跡	北巨摩郡長坂町大八田153-9ほか	1,888.00	集落跡	縄・平・中	道路	長坂町教育委員会	H11. 9 . 7	～	H11. 9 .14
113	山宮路Ａ遺跡	中巨摩郡敷島町島上条1256-7	160.00	集落跡	平	その他建物（店舗）	敷島町教育委員会	H11. 9 .17	～	H11.10. 1
114	武田城下町遺跡	甲府市屋形2-2357-1	10.00	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育員会	H11.10. 8	～	H11.10. 8
115	甲府城下町遺跡	甲府市北口２丁目12-1	142.92	その他の遺跡(城下町)	近	その他の建物（事務所）	甲府市教育員会	H11.10.12	～	H11.10.22
116	宇山遺跡	東八代郡豊富村高部1708-1	4.00	散布地	縄・古・中・近	住宅	豊富村教育委員会	H11.10.12	～	H11.10.12
117	武田城下町遺跡	甲府市屋形２丁目2411-7. 8	246.54	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11.10. 4	～	H11.10. 8
118	追坂遺跡	南都留郡河口湖町644-2	2,350.00	散布地	縄	道路	山梨県教育委員会	H11.10.20	～	H11.10.29
119	中尾条里遺跡	東八代郡一宮町南野呂11-1	1,113.00	その他の遺跡（条里）	奈・平	宅地造成	一宮町教育委員会	H11.10.12	～	H11.11.30
120	間の原遺跡	北巨摩郡長坂町中丸字藤塚1611-1	338.06	散布地	縄	その他開発（無線基地）	長坂町教育委員会	H11.10.22	～	H11.10.22
121	寺前遺跡	北巨摩郡明野村上神取地内	73,000.00	集落跡	縄・平・中	農業関連	明野村教育委員会	H11. 6 .14	～	H11. 9 .30
122	大日川原遺跡	北巨摩郡明野村上神取地内	3,500.00	集落跡	古	農業関連	明野村教育委員会	H11. 4 . 1	～	H11. 5 .30
123	武田城下町遺跡	甲府市天神町148-1、148-2	403.40	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11.11. 1	～	H11.11. 5
124	上石田遺跡	甲府市上石田三丁目1301	365.84	散布地	縄	その他建物（店舗）	甲府市教育委員会	H11.11. 4	～	H11.11. 5
125	甲府城下町遺跡	甲府市宝165-1	136.37	その他の遺跡(城下町)	近	住宅	甲府市教育委員会	H11.11. 5	～	H11.11. 5
126	中溝遺跡	都留市大原字大原212-4	8,241.06	散布地	縄	その他建物	都留市教育委員会	H11.11.12	～	H12. 3 .31
127	井冨遺跡	北巨摩郡大泉村西井出6905-1	3.00	散布地	縄	その他建物（鉄塔）	大泉村教育委員会	H11.11. 8	～	H11.11. 8

No.	遺跡名	所在地	面積(m²)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間		
128	銀杏之木遺跡	甲府市東光寺295-1、298, 299	1,064.77	散布地	平～近	住宅	甲府市教育委員会	H11.11.11	～	H11.11.26
129	朝気遺跡	甲府市朝気1-93-2	482.17	集落跡	弥～平	その他建物（店舗）	甲府市教育委員会	H11.11. 2	～	H11.11. 4
130	本郷Ｂ遺跡	甲府市善光寺3-1917-1	277.00	散布地	平	住宅	甲府市教育委員会	H11.11. 5	～	H11.11. 5
131	宮の脇Ａ遺跡	甲府市善光寺２丁目2752-1	325.00	集落跡	縄・近	住宅	甲府市教育委員会	H11.11. 8	～	H11.11. 9
132	新居遺跡	北巨摩郡白州町横手1966-5	10.00	散布地	平・中	住宅	白州町教育委員会	H11.11.12	～	H11.11.17
133	前間田遺跡	東八代郡境川村前間田978-1ほか	2,800.00	散布地	縄	道路	山梨県教育委員会	H11.11.16	～	H11.11.17
134	大坪遺跡	甲府市横根町反田455-1	459.89	集落跡	古～平	その他開発（携帯電話基地局）	甲府市教育委員会	H11.11.11	～	H11.11.25
135	音羽遺跡	甲府市音羽町442ほか	50.00	散布地	平	宅地造成	甲府市教育委員会	H11.11. 2	～	H11.11.16
136	牛石遺跡	都留市厚原字牛石道下31	109.41	集落跡	縄	その他開発（無線基地）	都留市教育委員会	H11.11.16	～	H11.12.24
137	上十石遺跡	甲府市桜井町上十石691他	5,000.00	集落跡	弥～平	道路	山梨県教育委員会	H11.11.24	～	H11.12. 3
138	上町田遺跡	東山梨郡春日居町鎮目1086ほか	5,000.00	集落跡	弥～平	道路	山梨県教育委員会	H11.11.15	～	H11.11.19
139	緑が丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目138-10, 139	255.42	散布地	縄～古	住宅	甲府市教育委員会	H11.11.17	～	H11.11.18
140	武田城下町遺跡	甲府市屋形2-2350-1他	10.00	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11.10.25	～	H11.10.29
141	甲府城下町遺跡	甲府市北口3-104～108	150.00	その他の遺跡(城下町)	近	住宅	甲府市教育委員会	H11.11.24	～	H11.12.15
142	甲府城下町遺跡	甲府市北口2-15-27	9.68	その他の遺跡(城下町)	近	電気	甲府市教育委員会	H11.11.24	～	H11.11.25
143	新居道下遺跡	中巨摩郡若草町十日市場1769-2ほか	50.00	集落跡	古～平	宅地造成	若草町教育委員会	H11.11.25	～	H11.11.26
144	武田城下町遺跡	甲府市武田３丁目448、450-1	314.55	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11.12. 3	～	H11.12.10
145	音羽遺跡	甲府市音羽町389-7	265.13	散布地	弥・古	住宅	甲府市教育委員会	H11.12. 2	～	H11.12. 3
146	桂野遺跡	東八代郡御坂町上黒駒字桂野大道上2025ほか	3,000.00	散布地	縄	道路	山梨県教育委員会	H11.12. 8	～	H11.12.10
147	外河原ヂクヤ遺跡	甲府市増坪町445-6、447-3、457-3	449.91	散布地	古～平	その他建物（飲食店）	甲府市教育委員会	H11.12. 2	～	H11.12. 2
148	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目4515-1ほか	569.37	その他の遺跡(城下町)	中	宅地造成	甲府市教育委員会	H11.12. 8	～	H11.12.24
149	舞台遺跡	中巨摩郡八田村徳永1921, 1928	1,400.00	散布地	平	学術研究	八田村教育委員会	H11.12. 3	～	H11.12. 3
150	武田城下町遺跡	甲府市古府中町字中屋敷998-1ほか	312.64	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11.12. 7	～	H11.12.10
151	五反田遺跡	塩山市熊野字八反田966-3	3,200.00	散布地	古	道路	山梨県教育委員会	H11.12.16	～	H11.12.17
152	高家農道改良遺跡	東八代郡八代町高家1456	300.00	散布地	奈・平	道路	八代町教育委員会	H11.12. 6	～	H11.12.24
153	柚木遺跡	東八代郡八代町南竹居1230-1	15.00	散布地	縄・平・近	公園	八代町教育委員会	H11.12. 6	～	H11.12.10
154	三光遺跡	東八代郡御坂町竹居1188, 1194-2	143.00	散布地	縄	道路	御坂町教育委員会	H11.12. 7	～	H11.12.28
155	武田城下町遺跡	甲府市大手1-4515-1外	505.00	その他の遺跡(城下町)	中	住宅	甲府市教育委員会	H11.12. 8	～	H11.12.29
156	本郷遺跡	甲府市善光寺３丁目1935-1ほか	262.15	散布地	縄・中	住宅	甲府市教育委員会	H11.12.15	～	H11.12.18
157	辻遺跡	東八代郡境川村藤ぬた2415-1	50.00	集落跡	縄	道路	境川村教育委員会	H11.12.13	～	H11.12.13
158	石橋条里・石橋・前間田遺跡	東八代郡境川村石橋1107ほか	300.00	散布地	奈・平	道路	境川村教育委員会	H11.12.14	～	H11.12.24
159	新居田Ａ遺跡	中巨摩郡櫛形町平岡字新居田1168-1・長田1765-1	330.00	散布地	縄・弥・平～近	道路	櫛形町教育委員会	H11.12.13	～	H11.12.24
160	十二天遺跡	甲府市小松町496-1	324.05	散布地	平	住宅	甲府市教育委員会	H11.12.17	～	H11.12.20
161	反田第3、中西第3、寺部村附第6、9、10、11、12遺跡	中巨摩郡若草町寺部・鏡中条地内	2,460.00	散布地	弥～平	道路	若草町教育委員会	H12.12.20	～	H12. 3 .15
162	横田遺跡	甲府市桜井町字横田422-1, 420-5	992.02	散布地	近	住宅	甲府市教育委員会	H11.12.15	～	H11.12.15
163	桜井畑遺跡	甲府市和戸町1256-1	486.69	集落跡	弥～平	住宅	甲府市教育委員会	H11.12. 1	～	H12. 3 .31
164	亀田・窪田遺跡	甲府市和戸町1253, 1254, 1256-1	658.00	集落跡	古～平	道路	甲府市教育委員会	H11.12. 1	～	H12. 3 .31
165	向原遺跡	北巨摩郡武川村黒澤1762-3他	2,000.00	集落跡	縄・弥・中	その他開発(資材置き場)	武川村教育委員会	H11. 4 . 8	～	H12. 3 .31
166	大坪遺跡	甲府市和戸町字奈良原916-2ほか	1,602.96	散布地	奈・平・中	店舗	甲府市教育委員会	H12. 1 .12	～	H12. 1 .13
167	内山遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸字内山5771-19	11.00	散布地	縄	その他建物（無線鉄塔）	大泉村教育委員会	H12. 1 . 7	～	H12. 1 . 7
168	宮東遺跡	中巨摩郡甲西町古市場宮東143ほか	1,000.00	散布地	弥～平	個人住宅	甲西町教育委員会	H12. 1 .24	～	H12. 2 .29
169	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目4539-1	2,638.80	その他の遺跡(城下町)	中	宅地造成	甲府市教育委員会	H12. 1 .17	～	H12. 2 . 1
170	国府関連遺跡	東山梨郡春日居町熊野堂151, 149-1	190.00	官衙跡	古～平	学術研究	春日居町教育委員会	H12. 1 .25	～	H12. 3 .31

No.	遺跡名	所在地	面積(m²)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間		
171	榎原・天神遺跡	中巨摩郡八田村徳永榎原800	2,000.00	集落跡	奈・平	その他建物（公民館）	八田村教育委員会	H12. 1 .18	～	H12. 2 .29
172	鞍掛遺跡	東八代郡一宮町末木921-1	2,800.00	集落跡	弥～平	その他建物（文化館）	一宮町教育委員会	H12. 1 .25	～	H12. 3 .31
173	堰下西遺跡	北巨摩郡須玉町若神子字堰下西1630-1ほか	125.00	散布地	縄・平・中	その他開発（駐車場・資材置き場）	須玉町教育委員会	H12. 1 .18	～	H12. 1. 20
174	肥道遺跡	北巨摩郡須玉町若神子字肥道5584-5	317.50	散布地	縄・平	その他開発（リサイクル中間処理施設）	須玉町教育委員会	H12. 1 .12	～	H12. 1 .14
175	秋山氏館跡	甲府市高畑一丁目1083	714.00	城館跡	中	道路	甲府市教育委員会	H12. 6 .21	～	H12.12.28
176	東小山B遺跡・東小山C遺跡	東八代郡八代町高家1278	2,400.00	散布地	縄・古～近	道路	八代町教育委員会	H12. 1 .13	～	H12. 3 .31
177	埋没条里遺跡	東八代郡御坂町国が字境沢319ほか	555.00	散布地	弥～平	道路	御坂町教育委員会	H12. 2 . 2	～	H12. 2 . 8
178	甲ッ原遺跡第15地点	北巨摩郡大泉村西井出字和田9125-1	35.00	集落跡	縄・平	個人住宅	大泉村教育委員会	H12. 2 . 3	～	H12. 2 . 3
179	井冨第２遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字井冨7334-5	24.00	散布地	縄	宅地造成	大泉村教育委員会	H12. 2 . 4	～	H12. 2 . 4
180	石堂第６遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字石堂8240-1543	42.00	散布地	縄	その他開発（無線鉄塔）	大泉村教育委員会	H12. 2 . 7	～	H12. 2 . 7
177	前蔵遺跡	都留市大幡前蔵3583	14.40	散布地	縄	その他開発（電話基地）	都留市教育委員会	H12. 2 .14	～	H12. 2 .29
178	中原遺跡	北巨摩郡明野村小笠原3982	300.00	集落跡	縄	農業関連	明野村教育委員会	H11.12.20	～	H12. 3 . 1
179	西ノ原古墳	北都留郡上野原町大野5404	20.00	古墳	古	遺跡整備	上野原町教育委員会	H12. 2 .21	～	H12. 3 .24
180	青柳遺跡	南巨摩郡増穂町青柳町991-1	300.00	散布地	弥・近	道路	増穂町教育委員会	H12. 1 .31	～	H12. 2 .25
181	下相原遺跡	北巨摩郡須玉町下津金下相原2325-1ほか	135.00	散布地	近	住宅	須玉町教育委員会	H12. 2 .17	～	H12. 2 .17
182	久保之沢遺跡	甲府市下帯那町字久保之沢232-1他	60.00	散布地	縄・平	道路	甲府市教育委員会	H12. 2 .21	～	H12. 3. 17
183	大覚林遺跡	東八代郡八代町岡1784-4ほか	15.00	散布地	縄・中	道路	八代町教育委員会	H12. 2 .23	～	H12. 2 .25
184	天神前東遺跡	山梨市下石森字雲林601-4ほか	60.00	散布地	平	道路	山梨市教育委員会	H12. 1 .18	～	H12. 2 .29
185	当町遺跡	北巨摩郡高根町村山北割当町3315	40.00	散布地	縄・弥・平	その他建物	高根町教育委員会	H12. 3 . 1	～	H12. 3 . 5
186	武田氏館跡	甲府市古府中町2777-2ほか	800.00	城館跡	中	公園造成	甲府市教育委員会	H12. 2 .23	～	H12. 2 .29
187	藪ノ内遺跡	東八代郡中道町上曽根20ほか	70.00	散布地	古・奈	道路	中道町教育委員会	H12. 3 .10	～	H12. 3 .13
188	用竹遺跡（神戸遺跡）	北都留郡上野原町ゆずり原2362-2ほか	40.00	散布地	縄・弥	その他建物（役場庁舎）	上野原町教育委員会	H12. 3 . 9	～	H12. 3 .16
189	小山城	東八代郡御坂町八千蔵613番地	783.00	散布地	中	道路	御坂町教育委員会	H12. 3 .13	～	H12. 3 .23
190	甲ッ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字和田9167-35	230.00	集落跡	縄・平	個人住宅	大泉村教育委員会	H12. 3 .13	～	H12. 3 .15
191	宮の前下原遺跡	北巨摩郡高根町蔵原字宮の前1636	2,936.00	散布地	縄・平	道路	高根町教育委員会	H12. 3 .27	～	H12. 3 .31
192	史跡谷戸城跡周辺遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸2612ほか	48.00	集落跡	縄・平・中	学術研究	大泉村教育委員会	H12. 3 .22	～	H12. 3. 31
193	町屋第４遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸2090-2	6.00	散布地	近	その他開発（グランド）	大泉村教育委員会	H11.11.22	～	H12.11.26
194	成畑遺跡	北都留郡丹波山村字成畑755	118.89	集落跡	縄	学術研究	丹波山村教育委員会	H12. 3 .21	～	H12. 4 . 8
195	中台１	北巨摩郡白州町台ヶ原2310-170	8.00	集落跡	縄・中	個人住宅	白州町教育委員会	H12. 3 .13	～	H12. 3 .21
196	東原A遺跡	北巨摩郡武川村山高2812外	80.00	散布地	縄・中	農業関連	武川村教育委員会	H12. 1 .24	～	H12. 3 .31
197	東原A遺跡	北巨摩郡武川村山高字真原3567-184	300.00	集落跡	縄文	農業関連	武川村教育委員会	H11.11.25	～	H12. 3 .31
198	坂上B遺跡	北巨摩郡武川村三吹字坂上3757	1078.00	散布地	中世	農業関連	武川村教育委員会	H11.10.18	～	H12. 3 .31
199	大持原A遺跡	北巨摩郡武川村宮脇字大持原2267-10	100.00	散布地	縄文	農業関連	武川村教育委員会	H11.10.21	～	H12. 3 .31
200	東原A遺跡	北巨摩郡武川村山高字北小路2692	280.00	散布地	縄文・中世	農業関連	武川村教育委員会	H11.10.14	～	H12. 3 .31
			528,890.26							



●路線バスのご利用

甲　府ー右左口（中道橋経由）考古博物館で下車

●高速バスのご利用（2時間）

新宿西口……甲府南インター下車・徒歩10分

年　報　16

印刷日　平成12年5月25日
発行日　平成12年5月30日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL　055-266-3881・055-266-3016
FAX　055-266-3882
印刷所　横河グラフィックアーツ株式会社
山梨県甲府市高室町155
TEL　055-243-0548